プログラム

【会長講演】

PL

糖尿病性認知症―病態・診断から治療・ケアまで

羽生 春夫

東京医科大学高齢総合医学分野

【特別講演】

SL1 特別講演 1

11月7日 (木) 10時00分~10時50分 (第1会場 京王プラザホテル本館5FコンコードBC) 座長:鳥羽 研二(国立研究開発法人国立長寿医療研究センター)

日本の認知症医療政策

鈴木 康裕

厚生労働省医務技監

SL2 特別講演 2

11月7日 (木) 11時 00分~11時 50分 (第1会場 京王プラザホテル 本館 5F コンコード BC) 座長:羽生 春夫 (東京医科大学高齢総合医学分野)

Diagnosing dementia at the boundaries of Alzheimer and vascular disease

Geert Jan Biessels

Department of Neurology, UMC Utrecht Brain Center, University Medical Center Utrecht, Utrecht, the Netherlands

SL3 特別講演 3

11月8日(金) 9時00分~9時50分 (第1会場 京王プラザホテル本館5FコンコードBC) 座長: 秋山 治彦(横浜市立脳卒中・神経脊椎センター臨床研究部)

Alzheimer's Therapeutics: From Clinical Trials to Clinical Care

Jeffrey L. Cummings

Department of Brain Health, School of Integrated Health Sciences, University of Las Vegas, Nevada, USA/ Center for Neurodegeneration and Translational Neuroscience

SL4 特別講演 4

11 月 8 日 (金) 10 時 00 分~10 時 50 分 (第 1 会場 京王プラザホテル 本館 5F コンコード BC) 座長: 柳澤 勝彦 (国立研究開発法人国立長寿医療研究センター)

質量分析によるアルツハイマー病変の超早期検出

田中 耕一株式会社島津製作所

SL5 特別講演 5

11月8日(金) 11時00分~11時50分 (第1会場 京王プラザホテル 本館5FコンコードBC) 座長:羽生 春夫(東京医科大学高齢総合医学分野)

Molecular Imaging of Dementia: From New Biomarkers to Artificial Intelligence

Satoshi Minoshima

Department of Radiology and Imaging Sciences University of Utah, Salt Lake City, UT, U.S.A.

【プレナリーレクチャー】

PL1 プレナリーレクチャー1

11月7日 (木) 9時00分~9時50分 (第1会場 京王プラザホテル 本館5FコンコードBC) 座長: 西道 隆臣(理化学研究所神経老化制御研究チーム)

アルツハイマー病基礎研究の進歩

岩坪 威

東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野

PL2 プレナリーレクチャー2

認知症とポリファーマシー

秋下 雅弘

東京大学医学部附属病院老年病科

PL3 プレナリーレクチャー3

11月7日 (木) 9時00分~9時50分 (第3会場 京王プラザホテル 南館5Fエミネンス) 座長: 織茂 智之 (関東中央病院神経内科)

レヴィー病変の進展と臨床像のひろがり―因と縁の絡み合い―

内原 俊記

新渡戸記念中野総合病院神経内科·脳神経研究室/東京医科歯科大学脳神経病態学

PL4 プレナリーレクチャー4

11月7日(木) 9時00分~9時50分 (第4会場 京王プラザホテル 本館4F花AB) 座長: 辻 省次(国際医療福祉大学大学院/東京大学医学部附属病院分子神経学)

認知症のゲノム医療への展望

池内 健

新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター

PL5 プレナリーレクチャー5

11月7日 (木) 9時00分~9時50分 (第5会場 京王プラザホテル 本館4F花CD) 座長:中島 健二(独立行政法人国立病院機構松江医療センター)

軽度認知障害とプレクリニカル AD の概念

荒井 啓行

東北大学加齢医学研究所

PL6 プレナリーレクチャー6

11月7日(木) 9時00分~9時50分 (第6会場 京王プラザホテル 南館4F錦) 座長: 鈴木 利治(北海道大学大学院薬学研究院神経科学)

Alzheimer's disease and Autophagy

岡澤 均

東京医科歯科大学難治疾患研究所

PL7 プレナリーレクチャー7

11月7日(木) 9時00分~9時50分 (第7会場 京王プラザホテル 南館4F扇) 座長: 本間 昭(お多福もの忘れクリニック)

認知症ケアの進歩~Negative to Positive~

山口 晴保

認知症介護研究・研修東京センター

PL8 プレナリーレクチャー8

プリオン病研究の進歩:ヒトにおけるプリオンとプリオン様タンパク質の個体間伝播

山田 正仁

金沢大学大学院脳老化,神経病態学(脳神経内科学)

PL9 プレナリーレクチャー9

11月8日(金) 9時00分~9時50分 (第4会場 京王プラザホテル 本館4F花AB) 座長:伊藤 健吾(国立研究開発法人国立長寿医療研究センター治験・臨床研究推進センター)

アミロイド・タウ PET の現状と展望

石井 賢二

東京都健康長寿医療センター研究所神経画像研究チーム

PL10 プレナリーレクチャー 10

11月8日(金) 9時00分~9時50分 (第5会場 京王プラザホテル 本館4F花CD) 座長: 寺山 靖夫(岩手医科大学神経内科・老年科分野)

認知症の危険因子と防御因子

阿部 康二

岡山大学脳神経内科

PL11 プレナリーレクチャー 11

11月8日(金) 9時00分~9時50分 (第6会場 京王プラザホテル 南館4F錦) 座長: 葛原 茂樹(鈴鹿医療科学大学大学院医療科学研究科)

高齢者タウオパチー

村山 繁雄

東京都健康長寿医療センター神経内科・バイオリソースセンター・高齢者ブレインバンク・神経病理

PL12 プレナリーレクチャー 12

11月8日(金) 9時00分~9時50分 (第7会場 京王プラザホテル 南館4F扇) 座長:朝田 降(東京医科粛科大学)

活動的なライフスタイルによる認知症予防

島田 裕之

国立長寿医療研究センター老年学・社会科学研究センター

PL13 プレナリーレクチャー 13

11月9日(土) 9時00分~9時50分 (第3会場 京王プラザホテル 南館5Fエミネンス) 座長: 髙島 明彦(学習院大学理学部生命科学科神経生物学)

FTLD の病理と臨床

新井 哲明

筑波大学医学医療系臨床医学域精神医学

PL14 プレナリーレクチャー 14

11月9日(土) 9時00分~9時50分 (第4会場 京王プラザホテル 本館4F花AB) 座長: 東海林幹夫(老年病研究所認知症研究センター)

認知症疾患の体液バイオマーカーの進歩と展望

徳田 隆彦

京都府立医科大学分子脳病態解析学

PL15 プレナリーレクチャー 15

BPSD 治療の最近の進歩

數井 裕光

高知大学医学部神経精神科学講座

PL16 プレナリーレクチャー 16

11月9日(土) 9時00分~9時50分 (第7会場 京王プラザホテル 南館4F扇) 座長: 今井 幸充(医療法人社団翠会和光病院)

人生の最終段階における医療とケア— ACP にフレイルの知見を活かす

会田 薫子

東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター上廣講座

PL17 プレナリーレクチャー 17

11月9日(土) 9時00分~9時50分 (第8会場 京王プラザホテル 南館3Fグレース) 座長:鳥羽 研二(国立研究開発法人国立長寿医療研究センター)

認知症に対する AI、ロボット技術の適用

近藤 和泉

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター

【学術教育講演】

EL1 学術教育講演 1

認知症の神経病理学

山崎 峰雄

日本医科大学千葉北総病院脳神経内科

EL2 学術教育講演 2

11月7日 (木) 11時00分~11時50分 (第5会場 京王プラザホテル本館4F花CD) 座長:鈴木 則宏(医療法人社団健育会湘南慶育病院)

認知症を伴う成人白質脳症の診断

小野寺 理

新潟大学脳研究所神経内科

EL3 学術教育講演 3

原発性進行性失語:診断の基本と今日のトピックス

大槻 美佳

北海道大学大学院保健科学研究院

EL4 学術教育講演 4

11月7日(木) 15時30分~16時20分 (第5会場 京王プラザホテル 本館4F花CD) 座長: 松田 実(清山会医療福祉グループ, いずみの杜診療所)

認知症と高次脳機能障害

鈴木 匡子

東北大学大学院医学系研究科高次機能障害学

EL5 学術教育講演 5

11月9日(土) 9時00分~9時50分 (第5会場 京王プラザホテル 本館4F花CD)

座長: 武田 雅俊(学校法人河崎学園大阪河崎リハビリテーション大学認知予備力研究センター)

認知症とてんかん

赤松 直樹

国際医療福祉大学医学部脳神経内科/福岡山王病院脳神経内科

EL6 学術教育講演 6

11月9日(土) 10時00分~10時50分 (第5会場 京王プラザホテル 本館4F花CD) 座長:祖父江 元(名古屋大学大学院医学系研究科)

PSP/CBD の臨床と病態

池田 佳生

群馬大学大学院医学系研究科脳神経内科学

EL7 学術教育講演 7

11月9日(土) 11時00分~11時50分 (第5会場 京王プラザホテル 本館4F花CD) 座長: 小田原俊成(横浜市立大学保健管理センター)

老年者のうつと認知症

井上 猛

東京医科大学精神医学分野

EL8 学術教育講演8

11月9日(土) 13時20分~14時10分 (第5会場 京王プラザホテル 本館4F花CD) 座長:米田 誠(福井県立大学看護福祉学部)

感染症と認知症

原 英夫

佐賀大学医学部内科学講座神経内科

EL9 学術教育講演 9

慢性外傷性脳症

田渕 肇

慶應義塾大学医学部精神神経科

【シンポジウム】

シンポジウム1 認知症とサルコペニア・フレイル

(日本サルコペニア・フレイル学会合同シンポジウム)

11月7日 (木) 10時00分~12時00分 (第2会場 京王プラザホテル 本館5FコンコードA)

座長:神﨑 恒一(杏林大学医学部高齢医学)

荒井 秀典 (国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター)

S1-1 認知的フレイル

国立長寿医療研究センターもの忘れセンター 杉本 大貴

S1-2 認知症と身体的フレイル

杏林大学医学部高齢医学 神﨑 恒一

S1-3 認知症とサルコペニア

大阪大学老年,総合内科学 杉本 研

S1-4 身体的フレイルと認知機能の接点

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター老年学・社会科学研究センター 西田裕紀子

S1-5 フレイルの社会的側面と認知症

鹿児島大学医学部保健学科理学療法学専攻基礎理学療法学講座 牧迫飛雄馬

シンポジウム 2 糖代謝異常と認知症

11 月 7 日 (木) 10 時 00 分~12 時 00 分 (第 3 会場 京王プラザホテル 南館 5F エミネンス)

座長:大八木保政(愛媛大学医学部老年·神経·総合診療内科学)

荒木 厚(地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター糖尿病・代謝・内分泌内科)

S2-1 地域住民における糖尿病と認知症の疫学研究: 久山町研究

九州大学大学院医学研究院衛生,公衆衛生学分野 二宮 利治

S2-2 糖尿病における認知機能障害とフレイル - 脳 MRI 拡散テンソル画像による検討

東京都健康長寿医療センター糖尿病・代謝・内分泌内科 田村 嘉章

S2-3 アミロイド・タウ PET を用いた糖尿病を伴う認知症の病型分類

東京医科大学高齢総合医学分野 竹野下尚仁

S2-4 高齢者糖尿病における認知症予防への挑戦

国立長寿医療研究センター 櫻井 孝

S2-5 糖尿病+アルツハイマー病モデルマウスの分子病態と治療薬の開発

愛媛大学医学部老年・神経・総合診療内科学 大八木保政

シンポジウム3 神経疾患の遺伝子治療

11月7日(木) 10時00分~12時00分 (第4会場 京王プラザホテル本館4F花AB)

座長: 井上 治久(京都大学 iPS 細胞研究所)

岩田 修永(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科生命薬科学専攻分子創薬科学講座 ゲノム創薬学研究室)

S3-1 AAV ベクターによる遺伝子治療

自治医科大学オープンイノベーションセンター神経遺伝子治療部門/東京大学医科学研究所 村松 慎一

S3-2 アルツハイマー病に対する新規遺伝子治療標的の探索

大阪大学大学院医学系研究科認知症プレシジョン医療開発学/

理化学研究所脳神経科学研究センター神経老化制御研究チーム 永田 健一

S3-3 New therapeutics development against ultra-early phase AD pathology

東京医科歯科大学難治疾患研究所脳統合機能研究センター 岡澤 均

S3-4 Structure and Engineering of CRISPR-Cas9

東京大学大学院理学系研究科 西增 弘志

シンポジウム 4 全脳機能の構築と連結性を理解し操作する ~認知症の解明と制圧へ~

11月7日 (木) 10時00分~12時00分 (第6会場 京王プラザホテル 南館4F錦)

座長: 樋口 真人(国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所) 木下 彩栄(京都大学医学研究科人間健康科学系専攻在宅医療看護学分野)

S4-1 全脳アーキテクチャを基盤とする計算論的認知障害研究にむけて

特定非営利活動法人全脳アーキテクチャ・イニシアティブ 山川 宏

S4-2 神経ネットワークのダイナミクス解析により認知症の病態解明を目指す PADNI 研究

国立精神・神経医療研究センター脳病態統合イメージングセンター先進脳画像研究部 花川 隆

S4-3 ニューロフィードバックによる脳活動の操作と興奮/抑制バランス変化

量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所 柴田 和久

S4-4 イメージング・ゲノムコホートによる脳の発達と加齢の理解

藤田医科大学医学部脳神経内科学 渡辺 宏久

シンポジウム 5 認知症初期集中支援チームの現状と課題

11月7日(木) 10時00分~12時00分 (第7会場 京王プラザホテル 南館4F扇)

座長:藤本 直規(医療法人藤本クリニック) 鷲見 幸彦(国立長寿医療研究センター)

S5-1 認知症初期集中支援チームの現状

国立長寿医療研究センター 鷲見 幸彦

S5-2 大都市部での認知症初期集中支援チームの現状と課題

大阪市立弘済院附属病院/大阪市福祉局高齢者施策部 中西 亜紀

S5-3 認知症初期集中支援チームの課題 行政の立場から

世田谷区砧総合支所子ども家庭支援課 高橋 裕子

S5-4 連携型認知症疾患医療センターの試み 支援の空白を埋める

医療法人藤本クリニック 藤本 直規

シンポジウム 6 高齢者認知症と身体合併症(日本老年医学会合同シンポジウム)

11月7日(木) 14時30分~16時30分 (第2会場 京王プラザホテル 本館5FコンコードA)

座長: 葛谷 雅文 (名古屋大学大学院医学系研究科地域在宅医療学・老年科学)

楽木 宏実(大阪大学大学院医学系研究科内科学講座(老年·総合内科学))

S6-1 認知症患者の高血圧管理

大阪大学大学院医学系研究科老年,総合内科学 山本 浩一

S6-2 認知症患者の糖尿病治療

名古屋大学大学院医学系研究科地域在宅医療学老年科学 梅垣 宏行

S6-3 認知症と転倒・骨折

東京大学大学院医学系研究科加齢医学 小川 純人

S6-4 認知症患者の誤嚥性肺炎・嚥下障害そして低栄養

杏林大学医学部高齢医学 海老原孝枝

シンポジウム 7 シヌクレイノパチーの病態と治療戦略

11 月 7 日 (木) 14 時 30 分~16 時 30 分 (第 3 会場 京王プラザホテル 南館 5F エミネンス)

座長: 高橋 良輔(京都大学大学院医学研究科臨床神経学)

服部 信孝 (順天堂大学医学部附属順天堂医院神経内科)

S7-1 動物モデルにおける α シヌクレイン伝播

東京都医学総合研究所認知症プロジェクト 鈴掛 雅美

S7-2 臨床症状とシヌクレイン病理の進展についての考察:単一病理診断としてのレビー小体病

順天堂大学医学部脳神経内科 高梨 雅史

S7-3 レム睡眠行動異常症 (RBD) とシヌクレイノパシー: I-PPMI 研究から

国立精神・神経医療研究センター病院脳神経内科 西川 典子

S7-4 レビー小体型認知症の早期診断法とシヌクレオパシーの病態解析法について

京都大学大学院医学研究科·医学部臨床神経学 江川 斉宏

S7-5 核酸医薬によるシヌクレイノパチーの治療開発

大阪大学医学系研究科神経内科学 中森 雅之

シンポジウム 8 早期・超早期アルツハイマー病治験 update 2019

11月7日(木) 14時30分~16時30分 (第4会場 京王プラザホテル本館4F花AB)

座長:森 啓 (大阪市立大学大学院医学研究科脳血管内治療・頭蓋底外科病態学) 東海林幹夫 (老年病研究所認知症研究センター)

S8-1 DIAN 研究/家族会議

老年病研究所認知症研究センター 東海林幹夫

S8-2 The A4 Study 2019

東京大学大学院医学系研究科神経病理学 岩坪 威

S8-3 バナー研究

大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室 池田 学

S8-4 gantenerumab の臨床試験の現況

筑波大学医学医療系神経内科学 玉岡 晃

シンポジウム 9 液-液相分離 (LLPS) と非膜性オルガネラが関わる神経変性病態

11月7日(木) 14時30分~16時30分 (第6会場 京王プラザホテル南館4F錦)

座長:野中 隆(東京都医学総合研究所認知症プロジェクト)

永井 義隆 (大阪大学大学院医学系研究科神経難病認知症探索治療学)

S9-1 液-液相分離(LLPS)と非膜性オルガネラが関わる神経変性疾患の病態解明へ向けて

大阪大学大学院医学系研究科神経難病認知症探索治療学 永井 義隆

S9-2 添加剤を用いた液-液相分離とアミロイドへの成熟プロセスの理解

筑波大学数理物質系 白木賢太郎

S9-3 ノンコーディング RNA による核内相分離構造体の形成機構

北海道大学遺伝子病制御研究所 廣瀬 哲郎

S9-4 ストレス顆粒形成によるストレス誘導神経細胞死の制御と活性酸素によるその破綻

東京大学医科学研究所分子シグナル制御分野 武川 睦寛

S9-5 核内非膜性オルガネラと運動神経変性疾患

新潟大学脳研究所神経内科 小野寺 理

シンポジウム 10 認知症ケアチームの現状と成果. 地域連携

11月7日(木) 14時30分~16時30分 (第7会場 京王プラザホテル南館4F扇)

座長: 内海久美子(砂川市立病院精神科)

内田 陽子 (群馬大学大学院保健学研究科)

S10-1 認知症ケア加算による病院への成果—病院最高責任者及び医師としての役割—

医療法人大誠会内田病院 田中 志子

S10-2 ケアミックス型の中規模病院における認知症サポートチーム

公益財団法人脳血管研究所附属美原記念病院 高橋 陽子

S10-3 急性期病院における認知症ケアチームの現状と成果

砂川市立病院認知症疾患医療センター 福田 智子

S10-4 認知症ケア加算2の現状と成果, 地域との連携へ

富岡地域医療企業団公立七日市病院 齊田 綾子

シンポジウム 11 認知症に関する訴えを神経心理学的に分析する

11月8日(金) 10時00分~12時00分 (第2会場 京王プラザホテル 本館5FコンコードA)

座長:森 悦朗(大阪大学大学院連合小児発達学研究科行動神経学・神経精神医学寄附講座) 石合 純夫(札幌医科大学医学部リハビリテーション医学講座)

S11-1 アルツハイマー病 レビー小体型認知症 軽度認知機能障害における取り繕い反応の比較

甲南女子大学人間科学部心理学科 松下 正輝

S11-2 「あまり話さなくなった」

足利赤十字病院神経精神科 船山 道降

S11-3 「やる気がなくなった」を神経心理学的に分析する

高知大学医学部神経精神医学講座 樫林 哲雄

S11-4 「以前と行動や嗜好が変わった」という症状を考える.

公益財団法人浅香山病院精神科/大阪大学大学院連合小児発達学研究科行動神経学·神経精神医学寄附講座 繁信 和恵

S11-5 「思い込み」と「見間違え」の症候分析

東京都立松沢病院精神科・神経内科 西尾 慶之

シンポジウム 12 脳小血管病と大血管病のクロストーク

11 月 8 日 (金) 10 時 00 分~12 時 00 分 (第 5 会場 京王プラザホテル 本館 4F 花 C+D)

座長: 冨本 秀和 (三重大学大学院医学系研究科神経病態内科学)

水野 敏樹 (京都府立医科大学大学院医学研究科神経内科学)

S12-1 患者由来 iPS 細胞を用いた遺伝性脳小血管病の病態研究

国立循環器病研究センター研究所病態代謝部 山本 由美

S12-2 若年性脳梗塞患者におけるもやもや病感受性遺伝子 RNF213 p.R4810K 多型の解析

国立循環器病研究センター脳神経内科 猪原 匡史

S12-3 心臓由来微小栓子と皮質微小梗塞; Ablation 後の認知機能の前向き解析

三重大学大学院神経病態内科学/三重大学大学院認知症医療学講座 加藤奈津子

S12-4 頚部血管病変と皮質微小梗塞 認知機能への影響について

国立循環器病研究センター脳血管内科 三輪 佳織

S12-5 脳微小出血の病理学的分布様式の人種差:Individual participant data meta-analysis

佐賀大学医学部内科学講座神経内科 藥師寺祐介

シンポジウム 13 タウオパシーの成因と病態

11月8日(金) 10時00分~12時00分 (第6会場 京王プラザホテル 南館 4F錦)

座長:長谷川成人(東京都医学総合研究所認知症プロジェクト)

田中 稔久(大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学講座精神医学分野)

S13-1 タウオパチーの臨床病理:グリア細胞のタウを中心に

弘前大学医学研究科脳神経病理学講座 若林 孝一

S13-2 タウオパチーの伝播の動物モデル

慶應義塾大学総合医科学研究センターエーザイ・慶應義塾大学認知症イノベーションラボ 下沢 明希

S13-3 タウタンパク質の凝集と脳の萎縮を加速する因子 CAPON の同定

理化学研究所脳神経科学研究センター神経老化制御研究チーム 西道 隆臣

S13-4 タウとエクソソーム

大阪大学大学院医学系研究科精神健康医学 工藤 喬

S13-5 生体イメージング技術を基盤としたタウオパチー創薬プラットフォームの開発

量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所脳機能イメージング研究部 佐原 成彦

シンポジウム 14 睡眠障害と認知症

11 月 8 日 (金) 10 時 00 分~12 時 00 分 (第 7 会場 京王プラザホテル 南館 4F 扇)

座長: 井上 雄一 (東京医科大学睡眠学講座)

平田 幸一(獨協医科大学脳神経内科)

S14-1 認知症病態と「睡眠の質」の双方向的関係性

国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第四部 皆川 栄子

S14-2 レム睡眠とその破綻のメカニズムや生理的作用

筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構(WPI-IIIS) 林 悠

S14-3 疫学の視点からみた睡眠障害と認知症発症

九州大学大学院医学研究院精神病態医学/九州大学大学院医学研究院衛生・公衆衛生学 小原 知之

S14-4 レム睡眠行動異常とレビー小体型認知症

獨協医科大学看護学部看護医科学(病態治療)/獨協医科大学病院睡眠医療センター 宮本 雅之

S14-5 認知症予防の観点からの不眠症治療

杏林大学医学部精神神経科学教室 高江洲義和

シンポジウム 15 アルツハイマー病における疾患修飾薬の現状と展望

11月8日(金) 13時20分~16時00分 (第1会場 京王プラザホテル本館5FコンコードBC)

座長:下濱 俊(札幌医科大学医学部神経内科学講座)

岩田 淳(東京大学医学部附属病院神経内科)

S15-1 Gantenerumab for Early Alzheimer's Disease: Following the Science

F. Hoffmann-La Roche, Ltd., Basel, Switzerland Geoffrey A. Kerchner

S15-2 Update on BACE1 Inhibitor umibecestat (CNP520) in the Generation Program

Senior Global Program Head, Novartis Pharma AG, Basel, Switzerland Ana Graf

S15-3 Clinical development of BAN2401 and elenbecestat for Alzheimer's Disease

Clinical Research, Neurology Business Unit, Eisai, Inc. Michael C. Irizarry

S15-4 Safety, tolerability, pharmacokinetics, and pharmacodynamics of single ascending doses of the anti-phospho-tau antibody JNJ-63733657 in healthy Caucasian and Japanese subjects

Janssen Research & Development, Titusville, NJ Hong Sun

S15-5 The role of Tau and Amyloid Imaging in Clinical Trials in Neurodegeneration

Avid Radiopharmaceuticals, a wholly owned subsidiary of Eli Lilly & Co Michael D. Devous

シンポジウム 16 認知症と自動車運転-改正道路交通法施行後の実態と課題

11 月 8 日 (金) 13 時 20 分~15 時 20 分 (第 2 会場 京王プラザホテル 本館 5F コンコード A)

平長: 三村 將(慶應義塾大学医学部精神・神経科教室)

荒井由美子(国立長寿医療研究センター長寿政策科学研究部)

S16-1 当事者および家族支援:家族介護者支援マニュアルの紹介

国立長寿医療研究センター長寿政策科学研究部 荒井由美子

S16-2 当センターにおける自動車運転免許証自主返納の現状~晩節を汚すなかれ~

社会医療法人白十字会佐世保中央病院長崎県地域型認知症疾患医療センター 井手 芳彦

S16-3 改正道路交通法の施行状況と高齢運転者の事故防止に向けて取り組むべき今後の課題

警察庁交通局運転免許課 丸山 直紀

S16-4 認知症高齢運転者による事故と医師の診断書作成に関する法的問題点

赤沼法律事務所 赤沼 康弘

S16-5 認知症と自動車運転:臨床現場の観点から

慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室 三村 將

シンポジウム 17 認知症画像診断の進歩

11月8日(金) 13時20分~15時20分 (第4会場 京王プラザホテル本館4F花AB)

座長: 松田 博史 (国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター脳病態統合イメージングセンター (IBIC))

岡村 信行(東北医科薬科大学医学部薬理学)

S17-1 たんぱく質凝集体イメージングの過去、現在、そして近未来

量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所脳機能イメージング研究部 島田 斉

S17-2 アストロサイトの PET トレーサー

東北大学医学部機能薬理学分野/東北大学加齢医学研究所老年医学分野 原田 龍一

S17-3 タウ蛋白集積とコネクティビティの関連

国立精神・神経医療研究センター病院放射線診療部 重本 蓉子

S17-4 MRI-QSM によるアルツハイマー病診断

北海道大学病院放射線診断科 工藤 與亮

シンポジウム 18 アルツハイマー病における血管性危険因子

11月8日(金) 13時20分~15時20分 (第5会場 京王プラザホテル 本館4F花C+D)

座長:長田 乾 (横浜総合病院臨床研究センター) 北川 一夫 (東京女子医科大学脳神経内科学)

S18-1 アルツハイマー病の血管性危険因子

横浜総合病院臨床研究センター 長田 乾

S18-2 久山町研究からみたアルツハイマー型認知症の血管性危険因子

九州大学大学院医学研究院精神病態医学/九州大学大学院医学研究院衛生・公衆衛生学 小原 知之

S18-3 心房細動と認知症

国立研究開発法人国立長寿医療研究センターもの忘れセンター 佐治 直樹

S18-4 アルツハイマー型認知症と慢性腎臓病

国立循環器病研究センター脳血管内科 三輪 佳織

S18-5 アルツハイマー病の血管危険因子:脳小血管病変

三重大学大学院医学系研究科·神経病態内科学 新堂 晃大

S18-6 アルツハイマー病における脳小血管病の神経心理機能への影響

東京女子医科大学脳神経内科 吉澤 浩志

シンポジウム19 メカノバイオロジーと physical medicine

11 月 8 日 (金) 13 時 20 分~15 時 20 分 (第 6 会場 京王プラザホテル 南館 4F 錦)

座長: 斉藤 貴志(名古屋市立大学大学院医学研究科認知症科学分野)

富田 泰輔(東京大学大学院薬学系研究科機能病態学教室)

S19-1 メカノメディスン:メカノバイオロジーを駆使した医学研究・臨床応用

岡山大学大学院医歯薬学研究科(医)システム生理学 成瀬 恵治

S19-2 神経軸索ガイダンスとシナプス形成・可塑性のメカノバイオロジー

奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス領域 稲垣 直之

S19-3 ミクログリアによる痛みの慢性化メカニズム

九州大学大学院薬学研究院 津田 誠

S19-4 physical medicine による 2 型糖尿病新規治療法の開発

熊本大学病院糖尿病・代謝・内分泌内科 近藤 龍也

シンポジウム 20 アジアにおける認知症ケア職の育成と日本の国際協力 (日本認知症ケア学会合同シンポジウム)

11 月 8 日 (金) 13 時 20 分~15 時 20 分 (第 7 会場 京王プラザホテル 南館 4F 扇)

座長: 菊池小百合(佐久大学信州短期大学部)

稲村 圭亮 (東京慈恵会医科大学附属柏病院精神神経科)

S20-1 外国人介護職員はどう作られていくのか:複雑化するチャネルと課題

京都大学大学院文学研究科 安里 和晃

S20-2 海外研修生・留学生の介護教育について

佐久大学信州短期大学部福祉学科 廣橋 雅子

S20-3 認知症ケア人材育成におけるアジアの課題

社会福祉法人小田原福祉会 時田佳代子

S20-4 アジアにおける認知症ケアの人材育成への協力を通して

名古屋柳城短期大学保育科 大崎 千秋

S20-5 日本認知症ケア学会による認知症ケア専門士制度の海外普及を目指して

東京慈恵会医科大学医学部精神医学講座 繁田 雅弘

シンポジウム 21 災害時における認知症診療

11月8日(金) 13時20分~15時20分 (第8会場 京王プラザホテル 南館3Fグレース)

座長: 古川 勝敏 (東北医科薬科大学総合診療科)

片山 禎夫(片山内科クリニック)

S21-1 東日本大震災前後の岩手県における認知症診療

岩手医科大学神経内科 高橋 純子

S21-2 大震災後の福島県における認知症の動向

磐城済世会舞子浜病院 田子 久夫

S21-3 最大被災地石巻における被災者支援の現場から見える,地域課題と認知症

石巻市健康部包括ケアセンター/前石巻市立病院開成仮診療所 長 純一

S21-4 倉敷真備町豪雨災害時の経験から災害時の認知症対応への提言

片山内科クリニック 片山 禎夫

シンポジウム 22 PART と SNAP の最新知見

11月9日(土) 10時00分~12時00分 (第3会場 京王プラザホテル 南館5Fエミネンス)

座長:山田 正仁(金沢大学大学院脳老化·神経病態学(脳神経内科学))

齊藤 祐子(国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院臨床検査部)

S22-1 バイオマーカーによる高齢者脳病態の新たな分類

量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所 樋口 真人

S22-2 CSF バイオマーカーによる SNAP の再考

新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター遺伝子機能解析学分野 春日 健作

S22-3 Primary-age related tauopathy(PART)の剖検確定診断例の臨床像

東京都健康長寿医療センター神経内科・高齢者ブレインバンク 仙石 錬平

S22-4 老化に伴う TDP43 蛋白蓄積症

東京都健康長寿医療センター神経内科・バイオリソースセンター・高齢者ブレインバンク・神経病理 村山 繁雄

シンポジウム 23 BPSD の成因と対応

11 月 9 日 (土) 10 時 00 分~12 時 00 分 (第 4 会場 京王プラザホテル 本館 4F 花 AB)

座長:橋本 衛(大阪大学大学院連合小児発達学研究科行動神経学·神経精神医学寄付講座) 中村 祐(香川大学医学部精神神経医学講座)

S23-1 抗精神病薬の安全性(J-CATIA 研究を通して)

香川大学医学部精神神経医学講座 中村 祐

S23-2 認知症ちえのわ net から見えてきた BPSD の現状と対応

高知大学医学部神経精神科学講座 數井 裕光

S23-3 BPSD の非薬物的アプローチ:行動分析による対応・支援プロトコル

筑波大学人間系 山中 克夫

S23-4 初期認知症患者の心理状態を考慮した BPSD の予防と対応の試み

大阪大学大学院連合小児発達学研究科行動神経学・神経精神医学寄付講座 橋本 衛

シンポジウム 24 響け、本人の声! 届け、家族の想い(認知症の人と家族の会合同シンポジウム)

11月9日(土) 10時00分~12時00分 (第7会場 京王プラザホテル 南館 4F扇)

座長:新井 平伊 (アルツクリニック東京)

大野 教子(公益社団法人認知症の人と家族の会東京都支部)

1 「認知症の人と家族の会」の活動について

公益社団法人認知症の人と家族の会代表理事 鈴木 森夫

2 わたしは認知症

公益社団法人認知症の人と家族の会埼玉県支部会員 長沢 明美

厄介な病気との共生

公益社団法人認知症の人と家族の会埼玉県支部会員 長沢 正史

3 再就職の厳しさ

日本認知症本人ワーキンググループ・東京都支部会員 中田 哲行

必死に生き, 多くの出会いに感謝

日本認知症本人ワーキンググループ・東京都支部会員 中田ひとみ

4 忘れてもいい: 今日の記録を明日に繋げる

公益社団法人認知症の人と家族の会埼玉県支部会員 渡邊 雅徳

5 アルツハイマー型若年性認知症の妻を看取るまで

公益社団法人認知症の人と家族の会東京都支部会員 藤沼 三郎

6 母の認知症:初めての絶望を知った日々の葛藤

公益社団法人認知症の人と家族の会東京都支部会員 松本 千鶴

7 本人支援・家族(介護者)支援は車の両輪!!

公益社団法人認知症の人と家族の会副代表理事, 埼玉県支部代表 花俣ふみ代

シンポジウム 25 認知症の疫学とコホート研究

11月9日(土) 10時00分~12時00分 (第8会場 京王プラザホテル 南館3Fグレース)

座長:二宮 利治 (九州大学大学院医学研究院衛生·公衆衛生学分野)

和田 健二 (川崎医科大学認知症学)

S25-1 国際的な認知症臨床・疫学の現状

藤田医科大学医学部脳神経内科学 新美 芳樹

S25-2 島根県海士町における認知症疫学研究

川崎医科大学認知症学/鳥取大学医学部脳神経内科学分野 和田 健二

S25-3 久山町における認知症コホート研究

九州大学大学院医学研究院精神病態医学/九州大学大学院医学研究院衛生・公衆衛生学 小原 知之

S25-4 認知症予防を目的とした臨床研究促進レジストリ研究

国立長寿医療研究センター老年学・社会科学研究センター 島田 裕之

シンポジウム 26 行動障害型前頭側頭型認知症(bvFTD)の多様性と診断を考える

11月9日(土) 13時20分~15時20分 (第3会場 京王プラザホテル 南館5Fエミネンス)

座長:池田 学(大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学講座精神医学分野)

川勝 忍(福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座)

S26-1 bvFTD の多様性:臨床・画像・病理から

福島県立医科大学会津医療センター精神医学講座 川勝 忍

S26-2 行動障害型前頭側頭型認知症(bvFTD)の臨床症候の特徴

大阪大学大学院連合小児発達学研究科行動神経学・神経精神医学寄附講座 橋本 衛

S26-3 bvFTD の縦断的臨床像と病理背景

きのこエスポアール病院精神科 横田 修

S26-4 bvFTD と ALS, CBS/PSP の関係について

藤田医科大学医学部脳神経内科学 渡辺 宏久

シンポジウム 27 認知症バイオマーカー探索の新潮流

11月9日(土) 13時20分~15時20分 (第4会場 京王プラザホテル本館4F花AB)

座長:里 直行(国立研究開発法人国立長寿医療研究センター認知症先進医療開発センター 分子基盤研究部)

富山 貴美 (大阪市立大学大学院医学研究科認知症病態学)

S27-1 超高感度 ELISA (Simoa) を用いたバイオマーカーの探索

京都府立医科大学分子脳病態解析学 徳田 隆彦

S27-2 認知症先制医療に対する血液バイオマーカーの貢献の可能性

国立長寿医療研究センター脳機能画像診断開発部 中村 昭範

S27-3 尿プロテオミクスによる認知症バイオマーカー探索

新潟大学大学院医歯学総合研究科社会・環境医学 渡邊 裕美

S27-4 Real-time quaking-induced conversion (RT-QuIC) 法を利用した認知症診断

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻 佐藤 克也

S27-5 視線検出技術と機械学習の融合による次世代型認知機能評価法の開発

大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学 武田 朱公

シンポジウム 28 脳神経外科と認知機能障害

11 月 9 日 (土) 13 時 20 分~15 時 20 分 (第 6 会場 京王プラザホテル 南館 4F 錦)

座長:三國 信啓(札幌医科大学脳神経外科)

工藤 千秋 (医療法人社団くどうちあき脳神経外科クリニック)

S28-1 脳神経外科もの忘れ外来 MCI 患者における脳波異常頻度及び低用量 AED による治療結果

森山脳神経センター病院 堀 智勝

S28-2 機能神経外科による認知症治療の展望

熊本大学病院機能神経外科寄附講座 山田 和慶

S28-3 水頭症. 頭部外傷. 脳血管障害と関係する認知症と脳神経外科

社会医療法人愛仁会高槻病院リハビリテーションセンター 欅 篤

S28-4 認知症・てんかんの発症・進展にミエリン損傷も関与する可能性

医療法人社団くどうちあき脳神経外科クリニック 工藤 千秋

シンポジウム 29 認知症の人と家族を支援する社会づくり―介護者教室、オレンジカフェ―

11月9日(土) 13時20分~15時20分 (第7会場 京王プラザホテル南館4F扇)

座長: 武地 一 (藤田医科大学医学部認知症・高齢診療科)

櫻井 博文(東京医科大学高齢総合医学分野)

S29-1 認知症の人と家族を支援する社会づくり~行政の視点から~

大阪市立弘済院附属病院/大阪市福祉局高齢者施策部 中西 亜紀

S29-2 PDCA サイクルから見る認知症介護教室:国立長寿医療研究センターを例に

国立長寿医療研究センターもの忘れセンター/京都大学こころの未来研究センター

上廣寄付研究部門医療・保健・福祉領域 清家 理

S29-3 介護者の力を引き出す「家族支援プログラム」による認知症家族支援

公益社団法人認知症の人と家族の会愛知県支部 尾之内直美

S29-4 地域を変える認知症カフェ

認知症介護研究・研修仙台センター/東北福祉大学総合福祉学部 矢吹 知之

S29-5 セカンドステージを迎えた認知症カフェ

藤田医科大学医学部認知症・高齢診療科 武地 一

【ホットトピック徹底討論】

AB. ApoE. タウの病態形成における役割再考

11 月 8 日 (金) 10 時 00 分~12 時 00 分 (第 4 会場 京王プラザホテル 本館 4F 花 AB)

座長:岩田 淳(東京大学医学部附属病院神経内科)

富田泰輔(東京大学大学院薬学系研究科機能病態学教室)

HT1 Aβ, タウ, ApoE の病理学的な役割

東京都健康長寿医療センター神経内科・高齢者ブレインバンク 仙石 錬平

HT2 サンドイッチ ELISA を活用した剖検脳研究からの知見

国立長寿医療研究センター認知症先進医療開発センター分子基盤研究部 篠原 充

HT3 ヒト遺伝学から見た Aβ、ApoE、タウの病的役割

新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター 池内 健

HT4 マウスモデルにおける Aβ. ApoE. タウ

名古屋市立大学大学院医学研究科認知症科学分野/理化学研究所脳神経科学研究センター 斉藤 貴志

【学会曾受賞講演】

11月9日(土) 10時00分~11時00分 (第6会場 京王プラザホテル 南館 4F錦)

座長: 遠山 育夫 (滋賀医科大学神経難病研究センター神経診断治療学部門) 松原 悦朗 (大分大学医学部神経内科学講座)

基礎 認知症モデルマウスの作製と抗認知症薬の開発

大阪市立大学大学院医学研究科認知症病態学 梅田 知宙

臨床 レビー小体病の知覚錯誤を神経心理学的に解明する

東京都立松沢病院精神科・神経内科 西尾 慶之

【市民公開講座】

認知症を知る・治す・予防する

11 月 9 日 (土) 13 時 00 分~14 時 30 分 (東京医科大学病院 9F 臨床講堂)

座長:羽生 春夫(東京医科大学高齢総合医学分野)

筑波大学附属病院神経内科 玉岡 晃

札幌医科大学神経内科 下濱 俊

東京医科歯科大学 朝田 隆

【Debate Session】※トータライザーを使用する聴衆参加型セッション

Debate Session 1 認知症は予防できる? できない?

11 月 7 日 (木) 9 時 00 分~10 時 20 分 (第 8 会場 京王プラザホテル 南館 3F グレース)

座長:浦上 克哉(鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座環境保健学分野)

DS1-1 認知症は予防「できる」の立場から

東京女子医科大学脳神経内科 吉澤 浩志

DS1-2 認知症は予防「できない」の立場から

慶應義塾大学医学部神経内科 吉崎 崇仁

Debate Session 2 認知症早期診断の意義はある? ない?

11月7日(木) 10時 30分~11時 50分 (第8会場 京王プラザホテル 南館 3F グレース)

座長:小野賢二郎(昭和大学病院附属東病院脳神経内科)

DS2-1 認知症早期診断の意義は「ある」の立場から

量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所脳機能イメージング研究部 島田 斉

DS2-2 認知症早期診断の意義は「ない」の立場から

東京都健康長寿医療センター神経内科・高齢者ブレインバンク 仙石 錬平

Debate Session 3 認知症は告知すべき? すべきではない?

11月8日(金) 9時00分~10時20分 (第8会場 京王プラザホテル 南館3F グレース) 座長: 田北 昌史(田北メモリーメンタルクリニック)

DS3-1 認知症は告知「すべき」の立場から

新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター遺伝子機能解析学分野 春日 健作

DS3-2 認知症は告知「すべきではない」の立場から

東京医科大学高齢総合医学分野 清水聰一郎

Debate Session 4 BPSD に薬物治療は必要? 必要ない?

DS4-1 BPSD に薬物治療は「必要」の立場から

東京慈恵会医科大学精神医学講座 品川俊一郎

DS4-2 BPSD に薬物治療は「必要ない」の立場から

かわさき記念病院精神科 藤城 弘樹

[Dementia CPC]

11 月 9 日(土) 13 時 20 分~15 時 20 分 (第 8 会場 京王プラザホテル 南館 3F グレース)

座長:村山 繁雄(東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンク)

馬原 孝彦(水野記念リハビリテーション病院)

病診連携ブレインバンク生前同意登録に基づく認知症剖検例 CPC(日本神経病理学会後援)

DC1 覚醒時の歯軋りが著明であった前頭側頭型認知症の1例

臨床: 香川大学医学部神経難病講座 鎌田 正紀

Discussant: 浅香山病院精神科 釜江 和恵

病理:東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンク 松原 知康

DC2 非流暢性失語で発症した経過 13年の77歳女性剖検例

臨床: 山王病院脳神経内科 鷲崎 一成

Discussant: 東京医科大学高齢総合医学分野 平尾健太郎

病理:東京都健康長寿医療センター高齢者ブレインバンク 村山 繁雄

【専門医試験対策講座】

専門医試験対策講座 1

11月8日(金) 8時30分~9時00分 (第3会場 京王プラザホテル 南館5Fエミネンス)

座長:池田 佳生(群馬大学大学院医学系研究科脳神経内科学)

SE1 認知症の基礎と病理

埼玉医科大学国際医療センター神経内科・脳卒中内科 高尾 昌樹

専門医試験対策講座 2

11 月 8 日 (金) 9 時 00 分~9 時 30 分 (第 3 会場 京王プラザホテル 南館 5F エミネンス)

座長:池田 佳生(群馬大学大学院医学系研究科脳神経内科学)

SE2 アルツハイマー病と症候学

かわさき記念病院 福井 俊哉

専門医試験対策講座3

11月8日(金) 9時30分~10時00分 (第3会場 京王プラザホテル 南館5Fエミネンス) 座長:池田 佳生(群馬大学大学院医学系研究科脳神経内科学)

SE3 血管性認知症

国立循環器研究センター脳神経内科 猪原 匡史

専門医試験対策講座 4

SE4 レビー小体型認知症

順天堂大学医学部附属順天堂医院認知症・診断・予防治療学講座/認知症疾患医療センター/脳神経内科 本井ゆみ子

専門医試験対策講座5

11月8日(金) 11時00分~11時30分 (第3会場 京王プラザホテル 南館5Fエミネンス) 座長:水上 勝義(筑波大学大学院人間総合科学研究科)

SE5 前頭側頭葉変性症

藤田医科大学脳神経内科 渡辺 宏久

専門医試験対策講座6

11 月 8 日 (金) 11 時 30 分~12 時 00 分 (第 3 会場 京王プラザホテル 南館 5F エミネンス) 座長: 水上 勝義(筑波大学大学院人間総合科学研究科)

SE6 画像診断

近畿大学医学部放射線医学教室放射線診断学部門/近畿大学病院早期認知症センター 石井 一成

専門医試験対策講座7

SE7 薬物治療

愛媛大学医学系研究科地域健康システム看護学講座(老年精神地域包括ケア学) 谷向 知

専門医試験対策講座8

SE8 認知症のリハビリテーションとケア

国立研究開発法人国立長寿医療研究センターリハビリテーション科/ 健康長寿支援ロボットセンター認知行動科学研究室 大沢 愛子

専門医試験対策講座9

11月8日(金) 14時20分~14時50分 (第3会場 京王プラザホテル 南館5Fエミネンス) 座長:遠藤 英俊(国立研究開発法人国立長寿医療研究センター長寿医療研修センター)

SE9 認知症の社会環境・資源・倫理

国立研究開発法人国立長寿医療研究センターもの忘れセンター外来 武田 章敬

専門医試験対策講座 10

11 月 8 日 (金) 14 時 50 分~15 時 20 分 (第 3 会場 京王プラザホテル 南館 5F エミネンス)

座長: 遠藤 英俊 (国立研究開発法人国立長寿医療研究センター長寿医療研修センター)

SE10 症例報告書の書き方

三重大学医学部附属病院認知症センター/三重大学大学院医学系研究科認知症医療学講座/

三重大学医学部附属病院音楽療法室 佐藤 正之

【第38回日本認知症学会 研究者交流プログラム】

11 月 8 日 (金) 19 時 00 分~20 時 00 分 (第 7 会場 京王プラザホテル 南館 4F 扇)

座長: 里 直行(国立長寿医療研究センター認知症先進医療開発センター分子基盤研究部)

認知症地域コホートを起点とする予防法開発研究

金沢大学大学院医薬保健学総合研究科脳老化·神経病態学(脳神経内科学) 山田 正仁

(Brain Cutting)

11月8日(金) 14時00分~15時00分 (東京都健康長寿医療センター 病理診断科 研究所エリア4階) ※学術集会会場とは異なりますので、ご注意ください。

講師:齊藤 祐子 (国立精神・神経医療研究センター)

※詳細・申込方法は学会ホームページ「日程表/プログラム | ページよりご確認ください。

学会ホームページ URL: http://jsdr38.umin.jp/index.html

【ランチョンセミナー】

ランチョンセミナー1 待ったなしの認知症施策-新たな地域戦略

11 月 7 日 (木) 12 時 20 分~13 時 10 分 (第 1 会場 京王プラザホテル 本館 5F コンコード BC)

共催:日本メジフィジックス株式会社

後援:日本脳神経核医学研究会/日本核医学会

座長:前田 潔(神戸学院大学総合リハビリテーション学部)

1. MCI を見逃さないために - 画像診断を用いた白山市での取り組み

演者:横山 邦彦(公立松任石川中央病院)

2. 認知症早期介入に向けて-神戸モデル、開始から半年を振り返る

演者: 古和 久朋(神戸大学大学院保健学研究科)

(概要)脳血流 SPECT やドパミントランスポーターイメージングなどの機能画像検査は認知症の鑑別診断ツールとしてエビデンスのある有用な検査だが、これらの検査を使って認知症を病型診断まで実施できているのは全国でも約1,200の限られた医療機関のみである。高齢人口が増加する中で、認知症が見逃されたり、病型診断に時間がかかると、適切な生活指導や治療に支障をきたすことが想定されるため、早期に認知症を診断・鑑別することが重要である。潜在的な認知症患者を拾い上げるために地域で取り組んでいる戦略と医療連携で SPECT 検査を活用した認知症の早期鑑別診断について紹介し、他の地域でも参考になるような内容としたい。

ランチョンセミナー2 認知症と不眠、睡眠薬との関連

11月7日(木) 12時20分~13時10分 (第2会場 京王プラザホテル本館5FコンコードA)

共催:エーザイ株式会社

座長:川畑 信也(八千代病院神経内科/愛知県認知症疾患医療センター)

演者:栗山 健一(国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所睡眠・

覚醒障害研究部)

(概要)慢性的な睡眠不足は注意・記憶等の認知機能障害の原因となる.数日程度の操作的な睡眠時間短縮でも注意・記憶障害が出現するが,この場合はその後適切に回復睡眠をとることで認知機能はほぼ元の状態まで回復する.しかし長期慢性的に睡眠が障害されると認知症の発症リスクが高まる可能性が疫学調査で示されている.高齢者認知症の多くがアルツハイマー病(AD)であると考えられているが,高齢者の慢性不眠と全脳における脳内アミロイドβ蛋白(Aβ)の蓄積量に有意な相関が認められることが機能画像で確認されている.ADモデルマウスを用いた研究でも,睡眠剥奪操作により脳間質液中のAβ濃度が増加することが示されている.さらに,徐波睡眠中に脳間質腔のスペースが拡大し,実験的に注入されたAβの排出が促進される可能性が示唆されている.

他方で、睡眠薬の長期使用と認知症発症との関連性も推測されている。AD 高齢者を対象とした追跡調査によると、ベンゾジアゼピン系睡眠薬の継続使用が、AD 発症リスクを有意に高め、投与睡眠薬の量や作用時間と相関すると報告されている

近年, 睡眠薬の多剤・大量・長期投与の問題がクローズアップされているが, 睡眠が中枢神経代謝に果たす役割および長期的なアウトカムを考慮した睡眠薬の適正使用に関する考察を行いたい.

ランチョンセミナー 3 アルツハイマー型認知症でみられる症状とその対応 ~介護者とのコミュニケーションのコツ~

11 月 7 日 (木) 12 時 20 分~13 時 10 分 (第 3 会場 京王プラザホテル 南館 5F エミネンス)

共催:ヤンセンファーマ株式会社

武田薬品工業株式会社

座長:下濱 俊(札幌医科大学医学部神経内科学講座) 演者:中村 祐(香川大学医学部精神神経医学講座)

(概要)アルツハイマー型認知症 (AD) をもつご本人と介護者は、ともに自宅での生活を望んでいることから、日常生活活動の機能が維持されている早い段階から治療を開始することが望まれる。

AD は物忘れの症状をきっかけに来院されることが多く、進行に伴い見当識障害や空間認知障害等が加わる。また行動・心理症状(BPSD)の発現は症状や程度が多様であることから、介護者の疾患理解が診療を継続する上で非常に重要となる。

本講演では、AD診療における介護者とご本人のコミュニケーションの取り方をありがちな対応とより好ましい対応を 具体的に提示し、良好なコミュニケーションを保つコツについて解説したい。併せて抗認知症薬の一つであるガランタ ミンを効果的に使うためのポイントについても触れたいと考えている。

ランチョンセミナー 4 アルツハイマー型認知症における高次視覚認知障害と自動車事故 一東洋医学からみた認知症薬物療法のアプローチ―

11 月 7 日 (木) 12 時 20 分~13 時 10 分 (第 4 会場 京王プラザホテル 本館 4F 花 AB)

共催:クラシエ薬品株式会社

座長: 杉本 研 (大阪大学大学院医学系研究科老年・総合内科学) 演者: 宮澤 仁朗 (特定医療法人さっぽろ悠々の郷ときわ病院)

(概要) 道路交通法が改正されて2年以上経過したが、高齢者による自動車事故の発生が後を絶たない、違反や事故の多くの原因が認知症であり、特にアルツハイマー型認知症の視覚情報処理の障害に起因した事例が多いとされている。レビー小体型認知症や血管性認知症と比較しつつ、事故を惹起する原因と傾向について分析・言及したい。

日本は医師が健康保険に基づき西洋薬のみならず漢方薬も処方できる稀有な国であるが、昨今、認知症の薬物療法として、西洋薬と共に生薬の薬効やバランスを考慮した漢方エキス剤によるアプローチも試みられている。東洋医学理論を基盤として脳中枢機能を考慮した認知機能障害に対する漢方治療について論じたい。

ランチョンセミナー 5 認知症の評価のポイントと薬物治療~ABC 認知症スケールを用いた診療~

11月7日(木) 12時20分~13時10分 (第5会場 京王プラザホテル本館4F花C+D)

共催:第一三共株式会社

座長: 秋下 雅弘 (東京大学大学院医学系研究科加齢医学(老年病科))

演者:和田 健二 (川崎医科大学認知症学)

(概要)認知症の日常診療においては、認知症患者の症状やその重症度を包括的に把握するとともに家族介護者の介護負担感なども評価しておく必要がある。認知症の症状には認知機能障害、日常生活機能障害および認知症の行動・心理症状 (BPSD) に由来する症状があり、これらの中から個々の患者の治療標的症状を選定し、治療開始後は症状の推移を評価しながら治療効果判定を行う。本セミナーでは、アルツハイマー型認知症の症状評価のポイントと薬物治療の効果判定について、ABC 認知症スケールを用いた診療を紹介する。

ランチョンセミナー 6 What is Alzheimer's Disease? Biomarkers, Pathology, and the Concept of AD

11 月 7 日 (木) 12 時 20 分~13 時 10 分 (第 6 会場 京王プラザホテル 南館 4F 錦)

共催:中外製薬株式会社

座長:池内 健(新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター遺伝子機能解析学分野) 演者: Geoffrey A. Kerchner(Global Development Leader, Product Development Neuroscience F. Hoffmann-La Roche, Ltd., Basel, Switzerland)

(概要) Alzheimer's disease (AD) was originally described as a clinical syndrome associated with characteristic pathological findings after death. Major advances have enabled the detection of amyloid-beta, tau, and other brain pathological features accurately in living patients, leading to a growing picture of the longitudinal interplay between pathology and clinical symptoms. Biomarker changes, particularly for amyloid-beta, are now known to occur far in advance of symptoms, leading to an evolution away from a clinical / syndromic definition of AD towards a definition based on the underlying biology. Numerous ongoing clinical trials of investigational therapies in individuals with pathological signs of AD but no clinical symptoms, along with a new NIA-AA Research Framework and new FDA Draft Guidance on Alzheimer's Disease, are products of this revised thinking. As new biomarkers emerge for features beyond amyloid-beta and tau, there will be opportunities to improve our understanding of AD biology, to reduce heterogeneity and improve signal detection in clinical trials, and ultimately to personalize the delivery of appropriate therapies to appropriate patients.

ランチョンセミナー7 病態を考慮した慢性便秘症診療―認知症患者への対応を考える―

11月7日 (木) 12時20分~13時10分 (第7会場 京王プラザホテル 南館4F扇)

共催:マイラン EPD 合同会社

座長:三村 將(慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室)

演者: 水上 健(独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター)

(概要)慢性便秘症は、女性は思春期、男性は高齢発症で、罹患率は20%に上り、毎日排便を目標に酸化Mgと刺激性下剤で経験的に治療されてきた。

慢性便秘症診療ガイドライン 2017 が発刊され、エビデンスが要求される時代となったが、診療フローチャートはいまだ存在しない。

その要因に複数臓器・複数病態からなる症候群で、認知症を含めた主病による症候性・薬剤性便秘も存在することが 挙げられ、病態に応じた対処が必要である。

腹部 X 線など画像検査を根拠とした「問診からの病態推測」と「新規便秘薬の使い分けを含めた治療選択」につき解説し、認知症患者への対応を考える。

ランチョンセミナー8 基礎と臨床から考える認知症診療

11月8日(金) 12時20分~13時10分 (第1会場 京王プラザホテル本館5FコンコードBC)

共催:第一三共株式会社

座長:長田 乾(横浜総合病院臨床研究センター)

1. アルツハイマー病の分子病態と NMDA 受容体への治療アプローチ

演者: 枝川 義邦 (早稲田大学研究戦略センター)

2. 認知症の診療 ~メマンチンの特徴について~

演者:馬場 康彦 (昭和大学藤が丘病院脳神経内科)

(概要)【講演1】記憶形成の基礎メカニズムおよびアルツハイマー型認知症における記憶障害のメカニズムには、海馬領域の NMDA 受容体が深く関与していることが知られている。今回は、記憶障害の分子病態メカニズムと認知症治療薬としての NMDA 受容体拮抗薬の薬理作用をまとめたい。【講演2】アルツハイマー型認知症(AD)治療薬であるメマンチンは NMDA 受容体の拮抗作用により中核症状の進行抑制効果を示すとともに、周辺症状を緩和する効果も期待できる。メマンチンは忍容性が高い薬剤と考えられる。認知症の人の病状にあわせた適切な薬物治療により日々の生活を支えることが診療において求められる。

ランチョンセミナー 9 アルツハイマー病の早期介入を見据えたバイオマーカー開発

11 月 8 日 (金) 12 時 20 分~13 時 10 分 (第 2 会場 京王プラザホテル 本館 5F コンコード A)

共催: IQVIA サービシーズ ジャパン株式会社

座長: 東海林幹夫(老年病研究附属病院認知症センター)

演者: 樋口 真人 (量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所脳機能イメージング研

究部)

(概要)アルツハイマー病(AD)の中核病態は、アミロイド β (A)とタウの脳内沈着(T)、ならびに神経変性(N)である。A、T、Nを早期より捉え、進行を客観的に評価することが、ADバイオマーカー開発の第一目標である。一方、加齢に伴い非AD型タウ線維や、AやT以外のタンパクが沈着し、Nを引き起こしうる。早期治療介入を見据えた場合、こうした多様な病態を画像や血液・髄液検査で網羅し、高齢者脳病態の分類や、進行予測、各種治療の適否判定を行う必要がある。また、脳病態がいかなる機序で血液・髄液マーカーの変化を引き起こすのかを、解明することも求められる。以上のバイオマーカー研究開発の現状と展望を、本講演で解説する。

ランチョンセミナー 10 Living Well With Dementia

11月8日(金) 12時20分~13時10分 (第3会場 京王プラザホテル 南館5Fエミネンス)

共催: ノバルティス ファーマ株式会社

座長:朝田 隆(東京医科歯科大学)

1. 脳機能画像のピットフォール

演者:本井ゆみ子 (順天堂大学大学院認知症診断・予防・治療学講座)

2. 認知症と医療と、人との関わり

演者:神戸 泰紀(医療法人社団こだま会こだまクリニック)

(概要)「脳機能画像のピットフォール」 順天堂大学 認知症疾患医療センター 本井ゆみ子

脳血流シンチは頭部 MRI で萎縮が明らかでない早期の変性型認知症の鑑別診断に有用な検査である.しかし,特に統計処理した画像では若年者や視力低下患者に後頭葉の血流低下がみられるなど,解釈に注意が必要である.病歴,症候,心理検査結果を踏まえた,総合的診断が特に軽症例には重要である.

「認知症と医療と、人との関わり」 こだまクリニック 神戸泰紀

「老い」や「認知症」の捉え方はその個人によって千差万別である. 認知症があると, 周囲の人との関係性に依存する生活のしづらさがしばしば生まれるが, 各々の関係性は唯一無二である. 個人の考えや関係性の, 個別性や多様性に相対する医療者の態度について, 具体的な症例を交えて言及する.

ランチョンセミナー 11 気付いてほしい!認知症に潜むてんかん

11月8日(金) 12時20分~13時10分 (第4会場 京王プラザホテル本館4F花AB)

共催:エーザイ株式会社

座長: 水上 勝義(筑波大学大学院人間総合科学研究科)

1. 認知症と高齢者てんかん~今できるかぎりのこと~

演者: 吉岩あおい(大分大学総合診療科)

2. 認知症に潜む高齢発症てんかん

演者:赤松 直樹 (国際医療福祉大学医学部脳神経内科/福岡山王病院脳神経内科)

(概要) 高齢者はてんかんの好発年齢で、65歳以上の高齢者では1%以上がてんかんを有する。てんかんで最も頻度の高い側頭葉てんかんでは、けいれんをきたさない意識減損焦点発作が典型的な発作であり、記憶障害が持続するためADと誤診される場合もある。また、発作を見逃すことで、認知機能の低下や転倒骨折など予後に重大な影響を及ぼす。そのため、発作を疑う場合は丁寧な問診と早期の治療介入を検討する。本講演では、高齢者のてんかんに理解を深めるために、もの忘れ外来における高齢発症てんかんの診断・治療のコツ、薬剤選択のポイントについて紹介する。

ランチョンセミナー 12 アミロイド PET イメージングの米国での動向

11 月 8 日 (金) 12 時 20 分~13 時 10 分 (第 5 会場 京王プラザホテル 本館 4F 花 C+D)

共催:日本メジフィジックス株式会社/GE ヘルスケア・ジャパン株式会社

後援:日本脳神経核医学研究会/日本核医学会

座長:池田 学(大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室)

演者: 蓑島 聡(Department of Radiology and Imaging Sciences, University of Utah)

(概要) これまでのアルツハイマー脳研究の成果として、米国、欧州、日本と世界各国で PET アミロイドイメージング診断薬が薬事承認され、医薬品として利用可能となっている。その適正な臨床使用を図るため、PET アミロイドイメージングの適正使用基準が SNMMI と Alzheimer's Association の共同で作成されている。一方で、米国では「エビデンス開発に応じた保険適用 (CED)」として限定的な利用にとどまっている。本セミナーでは、米国における PET アミロイドイメージングの臨床利用状況を紹介し、米国を中心に実施されている PET アミロイドイメージングによる患者管理と医療効果についての評価 (IDEAS 研究) などの最新知見を紹介する。

ランチョンセミナー 13 BPSD 治療の最前線

11月8日(金) 12時20分~13時10分 (第6会場 京王プラザホテル南館4F錦)

共催:株式会社ツムラ

座長:山田 正仁(金沢大学大学院医薬保健学総合研究科脳老化·神経病態学(脳神経内科))

演者: 岡原 一徳(医療法人慶明会けいめい記念病院脳神経外来・もの忘れ外来)

今村 友裕(九州大学神経内科学)

(概要)人参養栄湯は、古来より健忘のある高齢者の虚弱(フレイル)に用いられてきた処方の一つで、術後の体力低下、疲労倦怠、食欲不振、貧血などに対する効能効果を有する。フレイルとは「加齢に伴い各種臓器の機能が低下し、身体の予備能力が低下した状態」を指す疾患概念である。高齢者では認知症の行動・心理症状(behavioral and psychological symptoms of dementia、BPSD)のうち「食欲低下などの摂食障害と意欲低下・アパシー」が顕在化している特徴的な患者群が存在し、これらの患者ではフレイルが併発している場合がある。講演では当院における使用経験やこれまでの報告を元に、フレイルな認知症高齢者の疲労倦怠感・食欲不振に対する人参養栄湯の臨床効果や使い方、作用メカニズムについて述べる。

ランチョンセミナー 14 アルツハイマー型認知症 -疾患修飾へのアプローチを考えるー

11月8日(金) 12時20分~13時10分 (第7会場 京王プラザホテル 南館4F扇)

共催:小野薬品工業株式会社

座長:佐々木秀直(社会福祉法人函館厚生院函館中央病院/北海道大学)

演者:小野賢二郎(昭和大学医学部内科学講座脳神経内科学部門)

(概要)現在, 我が国ではアルツハイマー型認知症 (Alzheimer's dementia: AD) の治療薬としてコリンエステラーゼ阻害薬であるドネペジル, ガランタミン, リバスチグミンおよび NMDA 阻害薬であるメマンチンが許可されているが, これらの薬剤は投与を続けても認知機能低下の速度を低下させることができないため, 投与によって AD の進行そのものを修正できる疾患修飾療法 (disease-modifying therapy: DMT) の開発が精力的に行われている.

期待されていた抗アミロイド療法の不成功が伝えられるなかで、本セミナーでは、様々なアプローチから DMT につながる可能性について考えたい。

ランチョンセミナー 15 「認知症大綱」「認知症予防」に関する整理と、ご本人・家族との向き合い方

11月9日(土) 12時 20分~13時 10分 (第1会場 京王プラザホテル 本館 5F コンコード BC 第2会場 京王プラザホテル 本館 5F コンコード A)

共催:エーザイ株式会社

座長: 秋山 治彦(横浜市立・脳卒中脊椎センター)

演者:繁田 雅弘(東京慈恵会医科大学)

(概要)令和元年6月18日に認知症施策推進関係閣僚会議が「認知症施策推進大綱」をまとめた。それは「予防」と「共生」を車の両輪とするものであった。「共生」に関しては新オレンジプランからの流れを踏襲するもので医療・ケア関係者ばかりでなく本人や家族など当事者にとっても自然に受け入れられるものであった。一方「予防」に関しては、いったん掲げられた数値目標が取り下げとなった。発症や進行を遅らせる可能性についての考えが、立場によって異なることを占めていると考えられた。認知症という課題に対する施策を、どのように考えればよいのであろうか。本人や家族の視点からの疾患への向き合い方についても言及したい。

ランチョンセミナー 16 認知症合併患者の出口を見据えた不眠症治療

11月9日(土) 12時20分~13時10分 (第3会場 京王プラザホテル 南館5Fエミネンス)

共催: MSD 株式会社

座長: 新井 平伊 (アルツクリニック東京) 演者: 芹田 巧 (医療法人厚生会道ノ尾病院)

(概要)認知症患者の不眠症の有病率は高率で一般に比べて高いと報告されている.

認知症では不眠症によって夜間の不穏, 興奮, 昼夜逆転などの問題が生じることもあり, 介護者の介護負担度が急激に増加することが問題となっている.

しかし、高齢認知症患者の不眠症に対する睡眠薬の有用性について、今のところ明確なエビデンスはない。

本講演では、高齢不眠症患者、特に高齢認知症患者に対する出口を見据えた不眠症治療の重要性、スポレキサントの 有用性、睡眠薬の転倒への影響などについて自験例を交えて紹介する.

ランチョンセミナー 17 100 年人生時代に向けたパーキンソン病診療の展望

11 月 9 日 (土) 12 時 20 分~13 時 10 分 (第 4 会場 京王プラザホテル 本館 4F 花 AB)

共催:大日本住友製薬株式会社

座長: 髙橋 良輔(京都大学医学部脳神経内科) 演者: 服部 信孝(順天堂大学医学部神経学講座)

(概要)2000年前後に誕生した若者の人生は、100歳まで生きる「100年世代」である。パーキンソン病も高齢化が進むことで加齢に伴う運動障害とパーキンソン病によって起こる運動緩慢の鑑別診断が一層重要となる。また、今後は「未病を治す」という言葉にあるように予防を重視する医学が重視され、パーキンソン病でも前駆症状やバイオマーカーにより同定することが求められている。

本講演では、パーキンソン病の診断について現在の診断基準のポイントから前駆症状の段階で同定するための研究、およびパーキンソン病の病態解明に関する最新の知見について解説したい.

ランチョンセミナー 18 レビー小体病における認知障害とその臨床的意義:病態生理をもとに再 考する

11 月 9 日(土) 12 時 20 分~13 時 10 分 (第 5 会場 京王プラザホテル 本館 4F 花 C+D)

共催:大塚製薬株式会社

座長:前田 哲也(岩手医科大学医学部内科学講座神経内科・老年学分野)

演者: 髙橋 牧郎(日本赤十字社大阪赤十字病院脳神経内科)

(概要)我が国のパーキンソン病(PD)患者は高齢化が進行しており、2017年の調査では 80代前半が最多である。病期が長期化するにつれ認知機能障害は顕在化するが,レビー小体病理の進行とともに AD 病理や虚血などの混合病理が影響する。病理学的には α -synuclein 優位の PD,PDD から高度に $A\beta$ やタウ病理を合併する DLB は一つの疾患スペクトラムと捉えることができる。臨床的にパーキンソニズムと認知機能障害のどちらが先に生じるかは Braak の dual hit pathway である程度説明可能である。本講演では PD,PDD,DLB の病態生理,CDD/CDS の重要性,ガイドラインに基づく治療の実際を概説し、 α -synuclein 免疫療法や autophagy を介した蛋白分解促進,病態進展抑制に関わる最近の知見をレビューする。

ランチョンセミナー 19 認知症の地域医療と画像検査の活用

11月9日(土) 12時20分~13時10分 (第6会場 京王プラザホテル南館4F錦)

共催:富士フイルム富山化学株式会社

後援:日本脳神経核医学研究会,日本核医学会

座長: 武地 一 (藤田医科大学医学部認知症・高齢診療科)

演者:内門 大丈(湘南いなほクリニック)

(概要)認知症を地域で支えるためには、医療・介護の公的なサービスの他に、地域コミュニティから自然発生的に生まれてくるインフォーマルサービスも重要になってくる。当院は、平塚市より認知症初期集中支援事業を委託されており、若年性認知症カフェなどを開催する SHIGETA ハウスプロジェクトにも関わっている。今回は、当院の行うもの忘れ外来・在宅医療・認知症初期集中支援の取り組みを踏まえて、かかりつけ医の立場から地域連携のあり方、当事者・介護者・多職種に対する認知症啓発活動や教育活動について解説する。なお、脳血流 SPECT 検査を中心とした核医学検査の活用事例、eZIS による CIScore の活用法についても紹介する。

ランチョンセミナー 20 アルツハイマー病コホート研究のこれまでとこれから

11 月 9 日 (土) 12 時 20 分~13 時 10 分 (第 7 会場 京王プラザホテル 南館 4F 扇)

共催:ヤンセンファーマ株式会社 メディカルアフェアーズ本部

座長:岩坪 威(東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野)

演者:岩田 淳(東京大学医学部附属病院脳神経内科)

(概要)軽度認知障害から認知症へとコンバートする因子の探索を目的として J-ADNI 研究が開始されて 10 年の年月が流れた. 北米 ADNI 研究に追随する形で開始されたこの研究は,500 人以上の参加者の画像,認知機能,体液バイオマーカーを 3 年間にわたり追跡した大規模なデータセットをもたらし、解析の結果米国と酷似する因子,及び日本人特有の因子が明らかとなり、「生物学」としてのアルツハイマー病の理解が進んだ。現在ではそれを礎として次世代の研究が開始され、根本治療薬開発のためのインフラストラクチャーの整備が進んでいる。

【イブニングセミナー】

イブニングセミナー 1 Lewy 小体型認知症の臨床:早期診断,症状多様性,治療対応

11 月 8 日 (金) 18 時 10 分~19 時 00 分 (第 4 会場 京王プラザホテル 本館 4F 花 AB)

共催:大日本住友製薬株式会社

座長: 木下 彩栄(京都大学大学院医学研究科人間健康科学専攻)

演者:長濱 康弘 (医療法人花咲会かわさき記念病院)

(概要) Lewy 小体型認知症(DLB)では典型的な症例の臨床診断は容易だが、症状のバリエーションが広く、非典型例では初期診断が困難なことも多い。さらに診断がついたとしても、DLB の症状は認知機能障害、精神症状、気分障害、パーキンソニズムや自律神経症状など多岐に渡るので、それぞれの症状を理解し治療対応するための幅広い知識が必要となる。本講演では、前駆症状を含む DLB の早期診断のためのポイントや、多様な精神症状の理解、パーキンソニズムやBPSD など諸症状に対する治療と対応について話す予定である。

イブニングセミナー 2 AMPA 受容体標識 PET probe によるヒト精神神経疾患の病態解明

11月8日(金) 18時10分~19時00分 (第5会場 京王プラザホテル本館4F花C+D)

共催:エーザイ株式会社

座長: 久保田有一(東京女子医科大学東医療センター/ TMG あさか医療センター)

演者: 高橋 琢哉 (横浜市立大学大学院医学研究科生理学)

(概要)現在の精神神経疾患の診断治療は基礎研究の根拠に乏しい.本講演では AMPA 受容体を認識する PET probe の開発について当教室の最新の知見を紹介する. AMPA 受容体をヒトで可視化する PET probe は未だ存在しない. この技術を用いて,「シナプス機能分子による精神神経疾患の再分類」が可能になり, 今後の「基礎研究の根拠」に基づいた新たな疾患概念の創出, さらには新規診断が可能になる.

てんかんと AMPA 受容体の関連は最近注目されている。本講演では、AMPA 受容体 PET probe による精神・神経疾患の病態解明を目指した最新の研究と、てんかん焦点診断薬としての本プローブの上市を目指した医師主導治験についても紹介する。

【モーニングセミナー】

モーニングセミナー 1 認知症対策におけるコホート研究と予防について:久山町研究の知見より 11 月 8 日 (金) 8 時 00 分~8 時 45 分 (第 6 会場 京王プラザホテル 南館 4F 錦)

共催:日本ケミファ株式会社

座長:宇高不可思(一般財団法人住友病院)

演者:二宮 利治(九州大学大学院医学研究院衛生・公衆衛生学分野)

(概要)わが国は4人に1人が高齢者という超高齢社会を迎え、急増する認知症が大きな医療・社会問題として注目されるようになった。認知症の予防対策を策定するためには、疫学研究によって地域住民の認知症の実態を把握し、その危険因子・防御因子を明らかにすることが必要不可欠である。そこで、福岡県久山町で50年以上にわたり継続中の生活習慣病の疫学調査(久山町研究)を継続している。この研究では、これまでに生活習慣病や栄養、運動習慣などが認知症発症に及ぼす影響を報告してきた。本講演では、この久山町研究の知見をもとに、わが国の認知症予防について検討する。

モーニングセミナー 2 アミロイド PET の臨床エビデンス — IDEAS 研究を踏まえて—

11月8日(金) 8時00分~8時45分 (第7会場 京王プラザホテル 南館4F扇)

共催:日本イーライリリー株式会社 研究開発本部

演者: Michael D. Devous, Sr. (Avid Radiopharmaceuticals / Eli Lilly & Co.)

(概要)アミロイド PET は、これまで主にアルツハイマー病の疾患修飾薬の臨床試験において被験者の層別化に使用されてきたが、海外では徐々に臨床現場における使用のデータも集積されつつある。米国において PPP (private public partnership) の枠組みで実施されている IDEAS (Imaging Dementia — Evidence for Amyloid Scanning) 研究では、アミロイド PET の結果が医師、患者に与えるインパクトを検討しているが、この IDEAS 研究を踏まえて、本セミナーではアミロイド PET の現状と今後について話したい。

モーニングセミナー3 認知症・神経変性疾患バイオマーカーとしての血液中エクソソームの可能性

11月9日(土) 8時00分~8時45分 (第6会場 京王プラザホテル 南館4F錦)

共催: ノバルティス ファーマ株式会社

座長: 冨本 秀和 (三重大学大学院医学系研究科神経病態内科学)

演者: 永井 義隆(大阪大学大学院医学系研究科神経難病認知症探索治療学)

(概要)アルツハイマー病,パーキンソン病,ポリグルタミン病などの多くの神経変性疾患の分子病態が明らかになり、それらを標的とした分子標的治療薬の開発研究が進んでいるが、ヒト患者を対象とした治験での有効性の実証は容易ではない。その原因として、疾患の診断・治療介入時期と薬効評価のための客観的指標の問題が指摘されており、発症前から分子病態の進行を鋭敏に検出できる診断バイオマーカーや、緩徐進行性の神経変性疾患の病態を鋭敏に評価できる疾患バイオマーカーの開発が望まれている。エクソソームは細胞から分泌される細胞外小胞で、RNA やタンパク質などを含有して細胞間コミュニケーションに働いており、血液、尿、脳脊髄液などで検出可能である。本セミナーでは、神経変性疾患の病態バイオマーカーとして、血液中エクソソームの可能性について紹介する。

モーニングセミナー4 嗅覚障害とパーキンソン病、認知症、フレイル

11月9日(土) 8時00分~8時45分 (第7会場 京王プラザホテル 南館4F扇)

共催:武田薬品工業株式会社

座長:赫 寬雄(東京医科大学神経学分野) 演者:飯嶋 睦(東京女子医科大学脳神経内科)

(概要) 高齢化に伴い神経変性疾患のアルツハイマー型認知症(AD)やパーキンソン病(PD)は増加の一途をたどっている。認知症の原因は AD が最多で、次いで脳血管性認知症、その他にレビー小体型認知症(DLB)、認知症と伴う PD など多岐にわたる。嗅覚障害は様々な神経変性疾患で認められ、特に AD、DLB や PD において早期診断や認知症の発症予測のバイオマーカーとして注目されている。また、加齢による嗅覚低下がサルコペニア・フレイルと関連することが報告され始めている。本セミナーでは、嗅覚障害とパーキンソン病、認知症およびサルコペニア・フレイルとの関連について概説する。

【ポスター討論】

ポスター会場 新宿 NS ビル 地下 1F 大ホール・中ホール 学術集会 1 日目 11 月 7 日 (木) 16 時 50 分~17 時 50 分

<学会奨励賞候補演題(基礎)>

P001 Heterozygous ACE deletion increases amyloid deposition in mice

名古屋市立大学医学研究科病態生化学分野 鄒 鶤

P002 マウス生体内の ATP 可視化技術によるアルツハイマー病の解明

京都大学医学研究科腎臓内科/JST さきがけ 山本 正道

P003 アミロイド β42 のプロトフィブリルを認識する RNA アプタマー

京都大学農学研究科食品生物科学専攻 村上 一馬

P004 アルツハイマー病血漿バイオマーカー分子 APP669-711 産生責任酵素 ADAMTS4 の同定

東京大学薬学系研究科機能病態学教室 横山雅シャラ

P005 AD 特異的 4R タウ病変を PSP と区別する

東京都医学総合研究所脳病理形態/日本大学神経内科 江橋 桃子

P006 Tau の Asn368 変異は Alzheimer 病由来 seed による凝集のみを低下させる

順天堂大学大学院老人性疾患病態・治療研究センター 下中翔太郎

P007 タウのプリオン様伝播モデルマウス

東京都医学総合研究所認知症プロジェクト 細川 雅人

P008 高齢者におけるメラトニン代謝産物 AMK の記憶力増強作用

東京医科歯科大学教養部生物学 丸山 雄介

<学会奨励賞候補演題(臨床)>

P009 Alzheimer's disease continuum における脳領域毎のアミロイド蓄積速度

国立長寿医療研究センター 岩田 香織

P010 成人ダウン症候群の認知症診断と認知機能予後予測における血液バイオマーカーの有効性

京都府立医科大学医学部神経内科学 笠井 高士

P011 幻視を伴うレビー小体病における定量的磁化率マッピング(QSM)を用いた視床枕の評価

産業医科大学放射線科 宮田 真里

P012 病理サブタイプ別にみた前頭側頭型認知症の前駆期における臨床症候

東京都健康長寿医療センター研究所神経病理/東京都立松沢病院精神科 河上 緒

P013 Novel tau tracer, PI 2620, for Alzheimer's disease (AD) and non-AD tauopathies

慶應義塾大学医学部神経内科 手塚 俊樹

P014 皮質微小梗塞の成因を診断する予測スコアにより認知症リスクへの早期介入を可能にする

三重大学医学部脳神経内科 石川 英洋

P015 心房細動アブレーション治療に観察される embolic microbleeds

三重大学大学院神経病態内科学 平田 佳寛

P016 特発性正常圧水頭症における PTPR type Q の髄液診断価値

順天堂大学医学部脳神経外科 中島 円

P017 Neuronal intranuclear inclusion disease (神経核内封入体病) の原因遺伝子同定

国立病院機構鈴鹿病院/名古屋大学神経内科 曽根 淳

P018 LMNB1 関連常染色体優性遺伝性白質脳症の本邦例と既報例の比較

新潟大学脳研究所遺伝子機能解析学分野 目崎 直実

P019 認知症患者における生活支援ツールの開発—理解しやすいフォントと時計に関する検討— 京都大学医学研究科人間健康科学系専攻 下坂 桃代

<基礎 Aβ, APP, presenilin>

P020 オートファジーの促進はエンドサイトーシス障害を増悪して細胞内 Aβ の蓄積を増加する

国立長寿研アルツハイマー病研究部病因遺伝子研究室 木村 展之

P021 高分子 Aβ オリゴマーは細胞膜傷害を介して神経細胞毒性を発揮する

昭和大学医学部薬理学講座(医科薬理学部門)/昭和大学医学部内科学講座(脳神経内科学部門) 安本 太郎

P022 大脳皮質における ILEI/FAM3C および Aβ の間質液への分泌様式に関する比較検討

滋賀医科大学神経難病研究センター 中野 将希

P023 Role of mitochondrial protein Tid1 in Alzheimer's disease

名古屋市立大学大学院医学研究科病態生化学 周 春雨

P024 Hypoperfusion accelerates AD pathology with the change of mitochondrial dynamics

岡山大学医学部神経内科 馮 田

P025 光酸素化反応による酸素化 Aβ の代謝機構の解析

東京大学大学院薬学系研究科機能病態学教室 堀 由起子

P026 内在性プレセニリン1エクソン9欠損マウスの作製と機能解析

理化学研究所脳神経科学研究センター神経老化制御研究チーム/

早稲田大学大学院先進理工学研究科生命医科学専攻分子脳神経科学研究室 佐藤 香織

P027 Aβオリゴマーの検出に向けたアルカリホスファターゼ融合プリオンタンパク質の開発

東京農工大学大学院工学府生命工学専攻 久保梨夏子

P028 Quantitative evaluation of Aβ oligomer in mouse brain using dot blot method

Tokyo Medical and Dental University Akiko Amano

P029 Alcadein α 欠損マウスにおける APP のアミロイド生成的代謝の促進機構

北海道大学大学院薬学研究院神経科学 鈴木 利治

P030 アストロサイト発現ネプリライシンは poly I:C によって発現低下がもたらされる

姬路獨協大学薬学部医療薬学科/北陸大学薬学部 山本 直樹

P031 アミロイドβ分解活性新規制御因子 GPR120 の同定

東京大学大学院薬学系研究科機能病態学教室 菊池 一徳

P032 PS1 変異体の解析による γ セクレターゼの構造変化とトリミング活性の上昇機構の解明

東北大学大学院農学研究科分子酵素学分野 今井 創

P033 ヒト iPS 細胞由来脳オルガノイドによるアルツハイマー病モデルの作製

慶應義塾大学医学部生理学 嶋田 弘子

P034 血液脳関門におけるアミロイドβの病的意義の検討

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻 豊川 勝

P035 インスリン受容体基質 2 の欠損は脳内でアミロイド β のシーディングを阻害する

東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野 佐野 俊春

P036 Galectin 3 binding protein は BACE1 活性を制御し Aβ 産生を抑制する

神戸大学大学院医学研究科医学部神経内科/分子脳科学 関 恒慶

P037 植物由来ポリフェノール化合物による神経細胞保護作用

筑波大学生命環境系 繁森 英幸

P038 Aβ線維の脱凝集による Aβオリゴマー形成の検討

東京農工大学大学院工学府生命工学専攻 郭 俊佑

P039 アプタマーを用いた Aβ オリゴマーの組織染色法の検討

東京農工大学工学部生命工学科 塚越かおり

P040 Temperature dependent modulation of Aβ production

名古屋市立大学医学研究科病態生化学 高 原

P041 C99 結合ペプチドによる APP 特異的 β 切断と γ 切断の抑制

同志社大学大学院生命医科学科 舟本 聡

P042 アミロイドβ40の3量体モデルの合成と神経細胞毒性

京都大学農学研究科食品生物科学専攻 入江 由美

P043 γ secretase の活性や基質選択性に関与する NCT 糖鎖付加部位の同定

同志社大学生命医科学部医生命システム学科神経病理学研究室 生田 美友

P044 ヒト人工多能性幹細胞を利用した presenilin 遺伝子変異の病態学的意義の検討

慶應義塾大学医学部生理学教室 渡部 博貴

P045 SV2B rather than SV2A preferably interacts with BACE1 as its negative regulator

京都大学大学院医学研究科人間健康学/京都大学大学院医学研究科臨床神経学 宮本 将和

P046 ob/ob マウスにおける Aβ42 の増加は寿命を短くさせる

国立長寿医療研究センター 篠原 充

P047 ネプリライシン活性制御因子 ENSA の代謝機構の解明

理化学研究所脳神経科学研究センター神経老化制御研究チーム 綿村 直人

P048 メマンチン塩酸塩はインスリン分解酵素の発現上昇を介し脳アミロイド血管症を抑制する

熊本大学大学院生命科学研究部脳神経内科学講座 井上 泰輝

P049 血管内皮細胞での APP 発現によって誘導される脳アミロイドアンギオパチー

理化学研究所疾患糖鎖研究チーム 立田由里子

P050 ゲンノショウコ(Geranium thunbergii)含有アミロイドβ凝集阻害物質の化学的解析

室蘭工業大学大学院工学研究科 上井 幸司

P051 末梢における AB の産生と生理作用

大阪市立大学大学院医学研究科認知症病態学 重森 慶子

<基礎 Apo E 関連>

P052 日本人における APOE のコモン・レアバリアント解析

新潟大学・脳研究所・遺伝子機能解析学分野 宮下 哲典

P053 Cholesterol regulates exosome release in cultured astrocytes

名古屋市立大学大学院医学研究科病態生化学 アブドラ モハンマド

P054 ヒト死後脳における APP・APOE の遺伝子発現解析

新潟大学·脳研究所·遺伝子機能解析学分野 Liu Lixin

P055 Effect of lactoferrin on Aβ production, clearance, and apoE secretion

Dept of Biochemistry, Nagoya City Univ Gradu Sch of Med Sci, Nagoya, Japan Mona Abdelhamid

<基礎 α-synuclein 関連>

P056 αシヌクレインリン酸化反応における脂肪酸結合蛋白質の役割

東北大学大学院薬学研究科薬理学分野 福永 浩司

P057 脳炎症と α シヌクレインリン酸化反応の関連性

東北大学大学院薬学研究科 福永 浩司

<基礎 治療薬等開発研究(前臨床)>

P058 老齢マウスを用いたメラトニン代謝産物 AMK による学習記憶能力の改善効果

東京医科歯科大学教養部生物学/上智大学理工学部 岩下 洸

P059 Tocotrienol-rich fraction modulates proteome profile in APP/PS1 mouse brain

滋賀医科大学神経難病研究センター HamizahShahirah Hamezah

P060 ブラッククミンシード由来チモキノンによる回避関連学習能の向上効果とその作用機序

島根大学医学部環境生理学 橋本 道男

P061 マウス脳血管性認知症モデルにおける再生アソシエイト細胞静注療法の効果について

東海大学医学部医学科内科学系神経内科学 今関 良子

P062 骨髄間葉系幹細胞治療はミクログリアによる炎症応答を制御し AB 病理を改善する

札幌医科大学医学部神経内科学講座 横川 和樹

P063 タンパク質栄養が脳機能に及ぼす影響とアミノ酸組成物摂取によるその改善効果

味の素株式会社/量子科学技術研究開発機構・放射線医学総合研究所 佐藤 英明

P064 組み替え大豆蛋白を用いたアルツハイマー病免疫療法の作用機序の検討

老年病研究所附属病院 瓦林 毅

P065 創薬モデル動物を用いたアルツハイマー病治療薬の開発

国立長寿医療研究センター CAMD 創薬モデル 林 永美

<基礎 その他>

P066 Effect of tooth loss on memory impairment and AD pathology

Dept of Biochemistry, Nagoya City Univ Gradu Sch of Med, Nagoya, Japan Taslima Ferdous

P067 APP はアンドロゲンによる転写制御を受け RNA 結合タンパク質 PSF の標的となる

東京都健康長寿医療センター研究所システム加齢 高山 賢一

P068 死細胞およびマウス大脳皮質に発現する TREM2 リガンド

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 城谷 圭朗

P069 覚醒自由行動下のマウスにおける髄液糖代謝の経時的解析

大阪大学大学院医学系研究科老年総合内科学 中嶋 恒男

<AD 疫学>

P070 喫煙と糖尿病の認知症リスクには相乗的交互作用が存在する

金沢大学医薬保健学総合研究科認知症先制医学 篠原もえ子

P071 ドネペジルの生存と介護度に対する効果の検討

佐賀県医療センター好生館総合内科 原野 由美

P072 Natural course of cognitive decline and impact of amyloid burden and APOE4

ヤンセンファーマ株式会社 高橋 昌義

P073 Cognitive changes in cognitive domains and impact of amyloid burden and APOE4

ヤンセンファーマ株式会社 高橋 昌義

P074 Clinical predictors of Alzheimer's disease progression

岡山大学病院脳神経内科 菱川 望

<AD 生化学・遺伝子>

P075 Alzheimer 型認知症と対照脳脊髄液中の Aβ 毒性コンホマーオリゴマー量とタウの関連

筑波大学医学医療系(神経内科学) 冨所 康志

P076 アルツハイマー病患者の血漿タンパク質の変動解析

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター研究所共同利用推進室 渡邉 淳

P077 認知症疾患医療センターにて髄液検査を施行した認知症患者の特徴

大阪市立弘済院附属病院神経内科 金田 大太

P078 Autophagy upregulation and tau oligomer

福井大学医学部第二内科脳神経内科 濱野 忠則

P079 SORL1 レアバリアントとアルツハイマー病発症リスクとの遺伝的関連

新潟大学脳研究所遺伝子機能解析学分野 月江 珠緒

<AD 臨床症候>

P080 Clinical significance of cerebral amyloid angiopathy in Alzheimer's disease

群馬大学大学院医学系研究科脳神経内科学 池田 将樹

P081 健忘型軽度認知障害とアルツハイマー病における空間表象能力の検討

国際医療福祉大学医学部神経内科 橋本 律夫

P082 アルツハイマー病の重症度と老研式活動能力指標の自己評価と家族評価の差の関連

岩手医科大学医学部内科学講座神経内科·老年科分野 赤坂 博

P083 地域で療養するアルツハイマー型認知症患者の BPSD の実態―在宅例と施設入所例の比較―

筑波大学附属病院・認知症疾患医療センター 江湖山さおり

P084 ドネペジルの急な中止により離脱症状を生じた症例の検討

福井大学医学部附属病院脳神経内科 上野亜佐子

P085 高次脳機能検査と髄液マーカーの相関からみたアルツハイマー型認知症嗅覚診断マーカー

国家公務員共済組合連合会虎の門病院高齢者総合診療部/

認知症疾患センター/公益財団法人冲中記念成人病研究所 井桁 之総

P086 アルツハイマー病における前頭葉機能検査の有用性の検討

山口大学大学院医学系研究科臨床神経学 川井 元晴

P087 髄液バイオマーカー診断された軽症アルツハイマー病における漢字書字能力の検討

京都大学医学部医学研究科臨床神経学 葛谷 聡

P088 小血管性虚血病変合併アルツハイマー型認知症の特徴

広島大学大学院脳神経内科 大下 智彦

<PD. DLB 臨床症候>

P089 当院におけるレビー小体型認知症の症例について

新潟県立中央病院脳神経内科 手塚 敏之

P090 DLB と AD の多面的比較研究

愛知医科大学精神科学講座 深津 孝英

P091 MIBG 心筋シンチグラフィで取り込み低下を示す高齢うつ病患者の臨床的特徴

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学 竹之下慎太郎

P092 DLB における五角形模写課題と立方体模写課題の正誤に関連する要因の検討

国立病院機構北陸病院 小林 信周

P093 物忘れ外来における小工夫 ―レビー小体病前駆症状質問紙 "DCARD" の活用―

順天堂大学医学部精神医学講座/順天堂東京江東高齢者医療センターメンタルクリニック/

順天堂東京江東高齢者医療センター PET-CT 認知症研究センター 笠貫 浩史

P094 パーキンソン病患者のバウムテストの検討

順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター脳神経内科 富沢 雄二

P095 パーキンソン病患者の歩行障害と全般的認知機能との関係

東京医科大学神経学分野 赫 寛雄

<PD. DLB 画像・病理・病態>

P096 レビー小体病患者におけるマンガン欠乏の背景因子

宇部リハビリテーション病院 沖野 基規

P097 レビー小体病におけるアルツハイマー病理は認知機能障害,萎縮,糖代謝障害に影響する

量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所脳機能イメージング研究部/

東京慈恵会医科大学精神医学講座 互 健二

P098 レビー小体型認知症における CSF AB40 および AB42/40 の検討

東京都健康長寿医療センター神経内科 金丸 和富

P099 prodromal DLB における PiB-PET を用いたアミロイド沈着の評価

山形大学医学部精神医学講座 小林 良太

P100 レビー小体型認知症診断における嗅覚検査とパレイドレア試験の有用性

東京医科大学高齢総合医学分野 稲川 雄太

P101 IMP-脳血流 SPECT における Cingulate Island Sign の適正 VOI 検討

東京医科大学高齢総合医学分野 金高 秀和

P102 レビー小体型認知症診療に関する医師アンケート調査

横浜市立大学保健管理センター 小田原俊成

P103 DLB 患者の認知機能・BPSD 重症度別, ゾニサミドのパーキンソニズム改善効果: 統合解析

大日本住友製薬株式会社メディカルアフェアーズ部 丸山 秀徳

P104 レビー小体病に伴う REM 睡眠行動異常症治療における抑肝散加陳皮半夏の位置づけの検討

神奈川歯科大学病院認知症·高齢者総合内科/藤田医科大学救急総合内科 眞鍋 雄太

P105 DLB パーキンソニズムに対するゾニサミドの治療効果:2 試験統合データの部分集団解析

大日本住友製薬株式会社メディカルアフェアーズ部 遠矢 俊司

P106 パーキンソン病に伴う認知症と画像所見の解析

北海道脳神経外科記念病院脳神経内科 緒方 昭彦

<筋萎縮性側索硬化症>

P107 ALS の意思決定様式の特異性とその神経基盤: 確率逆転学習課題を用いた検討

名古屋大学大学院医学系研究科神経内科 桝田 道人

P108 書字の誤りを呈する筋萎縮性側索硬化症—WAB による包括的言語機能評価と脳血流解析—

千葉大学医学部附属病院脳神経内科 櫻井 透

P109 筋萎縮性側索硬化症における書字の誤り

東京医科大学病院脳神経内科 加藤 陽久

P110 熟字訓を用いた ALS の意味記憶障害と安静時脳内ネットワーク解析

名古屋大学神経内科 小倉 礼

P111 筋萎縮性側索硬化症患者の前頭葉機能の特徴

岡山大学大学院脳神経内科学 太田 康之

<正常圧水頭症>

P112 特発性正常圧水頭症における PTPR type Q の髄液診断価値と脳内の役割

順天堂大学医学部脳神経外科 中島 円

P113 特発性正常圧水頭症におけるアミロイド, タウ PET の検討

国立長寿医療研究センター脳神経外科 文堂 昌彦

P114 髄液中 microRNA による特発性正常圧水頭症の併存疾患診断の試み

順天堂東京江東高齢者医療センター/順天堂大学脳神経外科 秋葉ちひろ

P115 髄液中アミロイドβ高分子オリゴマーによる特発性正常圧水頭症の鑑別診断

順天堂大学医学部脳神経外科 川村 海渡

P116 特発性正常圧水頭症におけるシャント術による長期認知機能の維持効果

大阪医科大学附属病院医学部脳神経外科 蒲原 明宏

<認知症に関連するその他の疾患>

P117 前頭側頭型認知症と大脳皮質基底核症候群の画像診断— ioflupane SPECT の有用性

秋田県立リハビリテーション・精神医療センター認知症診療部 笹嶋 寿郎

P118 進行性失語症患者における言語機能の神経基盤—FDG-PET の糖代謝部位との相関—

大阪市立大学医学部神経内科 武田 景敏

P119 進行性核上性麻痺の大脳皮質病変と認知機能障害

愛知医科大学加齢医科学研究所 三室 マヤ

P120 精神病症状と徘徊が目立ち比較的長期経過を辿った Globular glial tauopathy の一剖検例

名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野 平野 光彬

P121 多系統萎縮症における脳脊髄液バイオマーカーと認知機能の検討

新潟大学脳研究所神経内科 徳武 孝允

P122 Extension patterns of hyperintensity on diffusion-weighted MR images in dura CJD

Dept of Neurol and Neurobiol of Aging, Kanazawa Univ Kenji Sakai

P123 Creutzfeldt-Jakob 病における、αB-Crystallin の発現の時間的・空間的観察

愛知医科大学加齢医科学研究所 赤木 明生

P124 アストログリオーシスを生体画像化する新規 PET プローブ [18F] SMBT-1 の開発

東北医科薬科大学医学部薬理学/東北大学加齢医学研究所老年医学 岡村 信行

P125 PART, LATE と思われる症例の臨床的検討

順天堂大学大学院医学研究科/くどうちあき脳神経外科クリニック/

河村病院/メモリークリニックお茶の水 田平 武

P126 Sjögren 症候群による脳症における認知機能障害についての検討

岡山赤十字病院神経内科 武久 康

<認知症全般(早期診断, MCI)>

P127 PET 所見が悪化し始める認知機能正常者は脳波にも変化の兆候が見られるか

株式会社脳機能研究所 田中美枝子

P128 安静時機能的 MRI の使用経験 = default mode net work の検討 =

和昌会貞本病院脳神経外科 松原 一郎

P129 髄液中リン酸化 Neurofilament heavy chain 濃度は白質病変の重症度と相関する

大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学 藤岡 智宏

P130 しりとり課題中の脳酸素化ヘモグロビン変動と頭部 MRI 統計画像解析との関係

医療法人雄仁会加藤病院/久留米大学高次脳疾患研究所/久留米大学医学部精神神経科学教室 加藤 雄輔

P131 高齢者における局所脳体積と認知機能・嗅覚機能

昭和大学横浜市北部病院神経内科/昭和大学生理学講座生体調節機能学部門/

昭和大学医学部内科学講座脳神経内科学部門 久保田怜美

P132 嗅覚識別検査の有用性

相和会中村病院/久留米大学高次脳疾患研究所 森田喜一郎

P133 嗅覚識別検査による認知症の特徴

久留米大学高次脳疾患研究所 小路 純央

<神経心理検査>

P134 アルツハイマー型認知症患者 (AD) での ABC 認知症スケールと画像診断との相関性

公益財団法人脳血管研究所附属美原記念病院群馬県認知症疾患医療センター/

公益財団法人脳血管研究所附属美原記念病院脳卒中部門 神澤 孝夫

P135 知的障害者における認知症の疫学研究, スクリーニング検査の作成

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科精神神経病態学 竹之下慎太郎

P136 物忘れ外来初診時における ABC スケールの活用

日産厚生会玉川病院脳神経内科 齋藤 和幸

P137 軽度認知障害 (MCI) における Frontal Assessment Battery (FAB) と関連する血中指標の探索

医療法人社団旭川圭泉会病院 森川 文淑

P138 Addenbrooke's Cognitive Examination III 日本語版の信頼性・妥当性の検討

岡山大学病院医療技術部検査部門 矢部 真弓

P139 Cognitive Function Instrument (CFI) 日本語版の信頼性・妥当性に関する中間解析

神戸学院大学総合リハビリテーション学部/神戸大学大学院医学研究科精神医学分野 尾嵜 遠見

P140 日本語版 Cognistat Five 作成に係る信頼性, 妥当性及び有用性の検討

医療法人社団平仁会下館病院/順天堂大学医学部附属順天堂医院メンタルクリニック 高山 敏樹

P141 認知機能低下を有する患者の家電製品使用能力評価による IADL 診断ツールの開発

京都大学医学研究科人間健康科学系専攻 下坂 桃代

P142 もの忘れ外来受診患者の日常生活に対する自己評価・他者評価の特徴

川崎医科大学附属病院認知症疾患医療センター/川崎医科大学附属病院臨床心理センター/

川崎医療福祉大学大学院医療福祉学研究科臨床心理学専攻 吉武 亜紀

P143 軽度認知障害と軽度アルツハイマー病における ACEIII を用いた神経心理評価研究

千葉大学医学部附属病院認知症疾患医療センター 清水 啓介

P144 もの忘れ外来における新しい認知症評価法~ABC スケールの有用性の検討

遠軽厚生病院総合内科 東浦 勝浩

P145 当科外来受診の MCI 患者の CDR-J と MMSE-J の関連性について

国立研究開発法人国立循環器病研究センター脳神経内科 角田 千景

P146 ABC 認知症スケールの妥当性について

長崎大学医学部保健学科 下田 航

P147 簡易観察尺度(AD8-J)本人版の検討:涌谷プロジェクト. 住民健診への応用

東北大学 NICHe 高齢者高次脳医学/医療法人松田会エバーグリーン病院 菅原 智裕

P148 アルツハイマー病とレヴィ小体型認知症における物忘れの病識および自発性について

慶應義塾大学医学部神経内科/流山中央病院 吉崎 崇仁

P149 予兆に気づいて BPSD を予防するための「BPSD 気づき質問票 57 項目版」の開発

認知症介護研究・研修東京センター 藤生 大我

P150 認知症患者における Kohs 立方体組み合わせテスト: 物忘外来基本検査としての妥当性検討

京都認知症総合センタークリニック 柿本明日香

P151 認知症行動心理学的症候 (BPSD) 評価尺度 BEHAVE-AD-FW と NPI の比較

東北大学 NICHe 高齢者高次脳医学 厚東 知成

P152 Simplified Nutritional Appetite Questionnaire (SNAQ) 低下患者の半年後の経過観察

北福島医療センター脳神経内科 宗像 玲子

P153 認知症の簡易検査としての Japan Coma Scale の有用性について

岡山赤十字病院リハビリテーション科 安藤 研介

P154 DASC を用いた認知症高齢者の日常生活自立度ランク III 以上のスクリーニング方法の検討

東京都健康長寿医療センター 扇澤 史子

P155 認知機能検査における Mini-Cog の有用性

医療法人社団豊生会東苗穂病院リハビリテーション部 村口 英恵

P156 ABC 認知症スケールによる認知症の外来患者と入院患者の評価

医療法人社団葛野会木野崎病院 北尾 淑惠

P157 認知症高齢者に対する方言を用いた介入の影響

京都大学大学院医学系研究科人間健康科学系専攻在宅医療看護学分野。鳥畑由香里

P158 介護者の介護うつ・介護負担と患者の認知機能の経過との関係

東京医科大学高齢総合医学分野 ハイメ理恵子

P159 認知症介護者における主観的幸福感に関連する心理社会的因子の検討

慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室/桜ヶ丘記念病院 色本 涼

P160 認知症, MCI のスクリーニング: 脳活バランサーの活用

青森大学薬学部薬学科 大上 哲也

P161 タブレットを用いた講習予備検査の臨床的有用性

日本テクトシステムズ株式会社 安田 朝子

P162 介護者の言動が認知症の人の BPSD に与える影響についての検討

日南市立中部病院リハビリテーション科 鈴木幹次郎

<自動車運転・免許証>

P163 神経心理学的検査とシミュレーターによる認知症患者の運転適性評価

京都大学医学研究科人間健康科学系専攻 彭 舟媛

P164 認知症高齢者の自動車運転に関わる認知機能ならびに画像の評価についての検討

社会医療法人志聖会総合犬山中央病院 荒木 有三

P165 当院における運転免許に関する認知症診断依頼の傾向と予後

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院神経精神科 長谷川 浩

P166 中山間地域の脳神経内科診療所における道路交通法改正後の診断書作成状況に関する調査

微風会三次神経内科クリニック花の里 織田 雅也

P167 高齢者自動車運転免許更新を考える~講習予備検査で第一分類と判定された症例の特徴~

金沢医科大学病院認知症センター 入谷 敦

P168 元々の認知機能低下が疑われた脳血管リハビリテーション患者の自動車運転評価

総合大雄会病院リハビリテーション科 江崎 貞治

P169 運転免許証更新時認知症の恐れありと判断された受診患者の診断結果

国立病院機構柳井医療センター地域医療連携室 藤本 雅子

P170 意味性認知症患者の自動車運転中止をめぐる状況と対応に関する一考察

能本大学大学院医学教育部/能本大学病院神経精神科 高崎 昭博

P171 情景画検査と運転シミュレータを用いた高齢者の自動車運転危険群抽出の可能性

東北大学 NICHe 高齢者高次脳医学 大沼 二郎

P172 地域資源を活用した高齢者自動車運転支援ガイドブック作成と啓発について

周南市立新南陽市民病院リハビリ室 廣林 正則

<症例報告>

P173 写字で visual crowding を確認できたアルツハイマー病の 52 歳男性例

埼玉医科大学脳神経内科 瀬尾 和秀

P174 病初期より自己鏡像認知障害を呈した Alzheimer 病による PCA の一例

千葉大学医学部附属病院脳神経内科 初鹿野悦子

P175 維持透析を継続することができた超高齢者アルツハイマー型認知症の1例

桶狭間病院藤田こころケアセンター 萩倉 祥一

P176 MCI 及び AD 病患者に人参養栄湯を投与し食欲・意欲・認知機能の改善が認められた 3 例

医療法人慶明会けいめい記念病院脳神経外科 岡原 一徳

P177 季節による抗コリンエステラーゼ阻害薬の使い分け

脳神経内科はつたクリニック 初田 裕幸

P178 視覚認知障害に伴う否定妄想症候群を呈したレビー小体型認知症の一例

医療法人花咲会かわさき記念病院 岡部 百佳

P179 高度の坐骨神経痛様の疼痛を伴ったレビー小体型認知症の一例

日立製作所ひたちなか総合病院神経内科/筑波大学附属病院ひたちなか社会連携教育研究センター 保坂 愛

P180 てんかん発作と考えられる意識障害を繰り返したレビー小体型認知症の3例

公立甲賀病院脳神経内科 小河 秀郎

P181 レビー小体型認知症に合併したむずむず陰部症候群に関しての考察

国立精神・神経医療研究センター病院脳神経内科 塚本 忠

P182 パーキンソン病に伴う認知症発症時における認知機能障害の多様性について

国立病院機構西新潟中央病院脳神経内科/新潟大学脳研究所遺伝子機能解析学分野 黒羽 泰子

P183 漢字失書を認めた認知症の1例

岐阜県総合医療センター脳神経内科 西田 浩

P184 精神病症状が先行したハンチントン病の一剖検例

桶狭間病院藤田こころケアセンター/NPO 法人脳神経オーダーメード医療研究センター 関口 裕孝

P185 脊髄小脳失調症 8 型(SCA8)の認知機能

国立病院機構大牟田病院脳神経内科 渡邉 暁博

P186 不安, 心気, うつ, 常同的言語反復, 認知症を呈した嗜銀顆粒病

岡山大学大学院精神神経病態学/きのこエスポアール病院精神科 三木 知子

P187 認知障害を呈し、剖検で嗜銀性顆粒を認めた脊髄小脳変性症 31 型の 87 歳男性例

新渡戸記念中野総合病院脳神経内科 融 衆太

P188 認知機能障害で発症し、言語障害、パーキンソニズムを呈した FTLD-TDP type A の 1 剖検例

愛知医科大学加齢医科学研究所 岩崎 靖

P189 複合要因による食思不振からウェルニッケ・コルサコフ症候群に至った1症例

富山大学大学院医学薬学研究部神経精神医学教室 木戸 幹雄

P190 成人発症 Vanishing white matter disease の 1 剖検例

福岡大学医学部脳神経内科学教室/福西会南病院神経内科 横手 顕

P191 抑うつ症状に電気けいれん療法が奏功した possible corticobasal syndrome の一症例

名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野 水谷 裕樹

P192 ハンチントン舞踏病治療におけるブレクスピプラゾールの有効性

慶應義塾大学医学部精神神経科学教室/足利赤十字病院神経精神科 三村 悠

P193 IgG4 関連疾患自験 2 症例における脳 MRI 画像の微小脳出血の経時的変化とその考察

総合上飯田第一病院老年精神科/名古屋大学大学院医学系研究科精神医学分野 鵜飼 克行

P194 潜行性に経過し、大脳皮質基底核症候群様の症状を呈した CADASIL の一例

北中城若松病院 遠藤 一博

P195 認知症を模倣した Gonadotroph adenoma に対して eTSS が著効した 1 例

福岡大学筑紫病院脳神経外科 森永 裕介

P196 進行する歩行障害と認知機能障害で発症した神経梅毒の1例

名古屋大学脳神経内科 岩田 麻衣

P197 統合失調症として入院していた孤発性 Creutzfeldt-Jakob 病の 1 例

社会医療法人守口生野記念病院神経内科 片山 由理

ポスター会場 新宿 NS ビル 地下 1F 大ホール・中ホール 学術集会 2 日目 11 月 8 日(金) 16 時 50 分~17 時 50 分

<基礎 Tau 関連>

P198 間欠的低酸素負荷モデルを用いたリン酸化タウの増加・蓄積のメカニズム解明

国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第五部 柳下 聡介

P199 rTg4510マウスのタウ蓄積量を変動させる因子の探索

滋賀医科大学神経難病研究センター 柳沢大治郎

P200 Effect of ATBF1 on tau phosphorylation

名古屋市立大学医学部病態生化学 Inug Cha-Gyun

P201 タウタンパク質を加水分解する抗体酵素の開発

鈴鹿医療科学大学薬学部薬学科 田口 博明

P202 Tau 認識抗体による Tau 重合阻害機構解析

大阪薬科大学大学院 槌田 智裕

P203 Clearance of Aggregated Tau by Lithium Induced Autophagy Promotion

順天堂大学大学院認知症診断·予防·治療学講座 Nasir Uddin

P204 Memory Impairment Through SGK1 Mediated Tau Pathology in Type 2 Diabetes

Department of Diagnosis, prevention and treatment of Dementia, Juntendo University School of Medicine/

Department of Neurology, Juntendo University School of Medicine Montasir Elahi

P205 Aquaporin-4の欠損はタウの蓄積と神経細胞死を増悪させる

東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻神経病理分野 石田 和久

P206 一分子イメージングによるヒト iPSC 由来神経におけるタウタンパク質減少効果の確認

慶應義塾大学医学部生理学教室 前田 純宏

P207 培養細胞を用いた AB 過剰産生がタウの細胞外分泌へ及ぼす影響の検討

新潟大学脳研究所遺伝子機能解析学 石黒 敬信

P208 アルツハイマー病における Tau の DNA 損傷修復の阻害機構

滋賀医科大学大学院医学系研究科/京都大学大学院医学研究科臨床神経学/

京都大学大学院医学研究科人間健康科学専攻 浅田めぐみ

P209 アルツハイマー病治療を目指した光酸素化触媒によるタウアミロイド動態制御

東京大学大学院薬学系研究科機能病態学教室 鈴木 崇允

P210 植物由来抽出物を使ったタウ凝集阻害剤のスクリーニング

学習院大学理学部生命科学科/大学院自然科学研究科神経生物学(高島研究室) 阿部 将志

P211 肥満・高インスリン血症はアルツハイマー病マウスモデルの脳内タウ病理を増悪させる

大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学 伊藤 祐規

P212 Inhibitory effects of 2,4-Bis (cyclic-amino) phenol derivatives on tau aggregation

同志社大学生命医科学部/同志社大学神経変性疾患研究センター 宮坂 知宏

P213 カテコール骨格を持つ低分子化合物のタウ凝集阻害作用

学習院大学理学部生命科学科/大学院自然科学研究科神経生物学(高島研究室) 添田 義行

P214 慢性脳低灌流状態はタウのリン酸化を促進する

三重大学脳神経内科/松阪中央総合病院脳神経内科 島田 拓弥

P215 ヒト組織切片を用いたアルツハイマー病の神経原線維変化に結合する新規化合物の探索

滋賀医科大学神経難病研究センター 加藤 智子

P216 アルツハイマー病関連タンパク質タウの毒性に対する神経細胞への糖取り込み促進の効果

首都大学東京理学研究科生命科学 岡 未来子

P217 青斑核ノルアドレナリン系の損傷はタウオパチー動物モデル脳のタウ病理形成を促進する

吉田 裕孝

P218 野生型マウスを用いた新規タウ伝播モデル

東京都医学総合研究所認知症プロジェクト 鈴掛 雅美

<基礎 その他の認知症関連タンパク質・遺伝子>

P219 アルツハイマー病の進行に関わる新規タンパク質 CAPON の機能解析

理化学研究所脳神経科学研究センター神経老化制御研究チーム 橋本 翔子

P220 日本人集団における ABCA7 機能喪失型変異とアルツハイマー病発症リスクとの関連

新潟大学脳研究所遺伝子機能解析学分野 原 範和

P221 新規 AD 治療薬候補 p3-Alcβ の作用メカニズム解析

北海道大学大学院薬学研究院 羽田沙緒里

P222 食品由来蛋白質凝集体の Abeta との cross-seeding 効果の検証

金沢大学大学院脳老化・神経病態学(神経内科学) 浜口 毅

P223 ALS/FTD 原因遺伝子 C9orf72 の RAN 翻訳産物 poly-PR による神経細胞死機構の解析

東京医科大学分子病理学分野 金蔵 孝介

P224 C9orf72 に関連した FTLD/ALS において RNA exosome 複合体は GGGGCC リピート RNA を分解する

大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室/医療法人清風会茨木病院 河邊 有哉

P225 アルツハイマー病リスク因子 TREM2/DAP12 と近接相互作用するタンパク質の解明

東京大学大学院薬学系研究科機能病態学教室 木村 新伍

P226 ALSP 患者において同定された CSF1R 変異の機能アッセイ

新潟大学脳研究所遺伝子機能解析学分野 朱 斌

P227 CGG トリプレットリピート病 FXTAS における病態解明と治療薬開発

熊本大学発生医学研究所ゲノム神経学分野 池ノ下 侑

P228 血漿炎症系サイトカインと脳脊髄液バイオマーカーとの関連

新潟大学脳研究所遺伝子機能解析学分野/新潟大学脳研究所神経内科 樋口 陽

P229 神経-筋発生における collagen XXV の発現制御機構の解析

東京大学大学院医学系研究科神経病理学分野 平澤 朋子

P230 パーキンソン病関連因子 Rab7L1 のリソソームにおける機能の解析

東京大学医学系研究科脳神経医学専攻 小森 禎之

P231 hnRNPA3 は C9orf72 関連 FTD モデルショウジョウバエのリピート RNA 毒性を軽減する

大阪大学大学院医学系研究科神経難病認知症探索治療学教室 田港 朝也

P232 アルツハイマー病発症機構における Siglec-H のミクログリアに対する役割

理化学研究所脳神経科学研究センター/早稲田大学大学院先進理工学研究科生命医科学専攻 高村 理沙

P233 リボソーム結合因子によるリピート関連 ATG 非依存性 (RAN) 翻訳の調節

大阪大学大学院医学系研究科精神医学 後藤 志帆

<基礎 病態モデル動物>

P234 Fish oil は AD モデルマウスの認知機能低下を予防する

日本大学大学院生物資源科学研究科応用生命科学専攻 奥江紗知子

P235 SAMP10マウスに於る潜伏ヘルペスウイルス再活性化のアルツハイマー様病態に対する影響

福岡大学アニマルセンター 田中 聖一

P236 アルツハイマー病患者と $App^{NL_G_F}$ マウスにおける神経炎症関連遺伝子解析

名古屋大学環境医学研究所病態神経科学 祖父江 顕

P237 新規アルツハイマー病モデルショウジョウバエの作製

国立長寿医療研究センターアルツハイマー病研究部 関谷 倫子

P238 歯の喪失は pre-dementia から dementia への進行を早める

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科歯科機能形態学分野 後藤 哲哉

P239 APPswe/PS1dE9 マウスにおける preclinical 期からのガランタミン早期介入の有効性の検討

札幌医科大学医学部神経内科学講座 齋藤 太郎

P240 2型糖尿病による海馬 IRS シグナルの変化とアルツハイマー病態増悪化との連関

国立長寿医療研究センター統合加齢神経科学研究部 田之頭大輔

P241 アルツハイマー病リスク遺伝子 INPP5D が TREM2 シグナル伝達において果たす役割の解明

東京大学大学院薬学系研究科機能病態学教室 井口 明優

P242 C9-ALS/FTD モデルショウジョウバエにおけるリピート関連非 ATG 翻訳の制御

大阪大学大学院医学系研究科神経難病認知症探索治療学/

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第四部 上山 盛夫

P243 Time-course analysis of ether lipids and ROS in Alzheimer's disease model mouse

島根大学医学部臨床検査医学 長井 篤

P244 Possible regulatory roles of miRNAs in APP-KI AD model mice

九州大学大学院医学研究院神経内科 今村 友裕

P245 塩基編集技術を利用した高効率な変異 Psen1 マウス作製

理化学研究所脳神経科学研究センター神経老化制御研究チーム/

東京医科南科大学大学院脳神経病態学 笹栗 弘貴

P246 Cognitive deficits and synaptic degeneration in App knock-in mouse models of AD

国立長寿医療研究センター認知症先進医療開発センターアルツハイマー病研究部 飯島 浩一

P247 慢性脳低灌流状態が AIM2・NLRP3 インフラマソームを活性化させる

三重大学大学院医学系研究科神経病態内科学 松山 裕文

P248 光刺激による明暗リズム変化はアルツハイマー病マウスモデルのせん妄様行動を誘発する

大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学 伊藤 祐規

P249 聴覚機能を用いたアミロイドβ(Aβ)によるシナプス機能低下の分子機構解析

国立長寿医療研究センター認知症先進医療開発センター創薬モデル動物開発室 南 竜之介

<AD 画像>

P250 軽度認知障害(MCI)における大脳白質障害と血清シスタチン C との関連

東京医科大学高齢総合医学分野 平尾健太郎

P251 アルツハイマー型認知症,軽度認知障害における甲状腺機能と脳血流量の関連の検討

昭和大学藤が丘病院脳神経内科/昭和大学医学部衛生学公衆衛生学講座 野元 祥平

P252 アルツハイマー病における病識低下の神経基盤に関する画像研究

奈良県立医科大学精神科/量研機構放射線医学総合研究所脳機能イメージング研究部 北村聡一郎

P253 水頭症を伴うアルツハイマー病患者の脳血流画像の解剖学的標準化法の検討

千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学/量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所 仲野 義和

P254 アルツハイマー型認知症患者の経過観察における VSRAD の利用の検討

小林脳神経外科 · 神経内科病院脳神経外科 大日方千春

P255 MRI 構造画像と磁化率画像に基づくアルツハイマー病の診断指標

株式会社日立製作所研究開発グループ 佐藤 良太

P256 当施設で開発した PiB PET 皮質平均 SUVR 値の算出法と CapAIBL との互換性の検討

国立長寿医療研究センター/藤田医科大学 竹中 章倫

P257 Hippocampal sparing AD の AI による画像診断

滋賀医科大学神経難病研究センター MR 医学研究部門 椎野 顯彦

P258 高齢女性の骨量減少とアルツハイマー型認知症の脳血流低下領域との関係

東北大学医学部医学科 関 俊樹

P259 アルツハイマー病の病態進行における IART スコアの意義

京都府立医科大学/国立長寿医療研究センター 馬場 千紗

P260 The effect of APOE4 to the amyloid dynamics and positivity rate: A J-ADNI Study

藤田医科大学/国立長寿医療研究センター 岡田 佑介

P261 VSRAD と BAAD 同時解析による認知症の鑑別診断

セキ MRI 診断ネット画像診断部 関 耕治

P262 サルコペニアを有するアルツハイマー病患者の画像的特徴の検討

東京医科大学高齢総合医学分野 廣瀬 大輔

P263 脳血流 SPECT を用いた健忘型軽度認知障害の脳血流分布の特徴

順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センターリハビリテーション科/

首都大学東京大学院 國枝 洋太

P264 SCD・MCI 群におけるアミロイド PET と SPECT 等諸検査との関連性の検討

順天堂大学医学部精神医学教室 廣瀬 匠

P265 軽度認知障害における MoCA-J と PET 画像の関連

大分大学医学部神経内科学講座 江口 敦子

P266 アルツハイマー病患者の認知機能低下に対する脳虚血性変化の重要性

群馬大学大学院医学系研究科脳神経内科学 笠原 浩生

<AD 治療>

P267 進行度によるアルツハイマー型認知症への介入効果の相違

京都民医連あすかい病院/琵琶湖養育院病院脳神経内科/京都回生病院脳神経内科/

京都精華町国民保険病院脳神経内科 本城 靖之

P268 Japanese Study on the Estimation of Clinical course of Alzheimer's Disease

Japanese Society of Scaling Keys of Evaluation Techniques for CNS Disorders Heterogeneity (SKETCH)

渡辺 光法

P269 Florbetapir F18 uptake reduction in Alzheimer's disease patients with Donanemab

Eli Lilly Japan, K.K., Kobe, Japan Masako Nakano

P270 CORRELATION BETWEEN AMYLOID REDUCTION AND CLINICAL OUTCOMES ON GANTENERUMAB

F. Hoffmann-La Roche, Switzerland and UK Paul Delmar

P271 LARGE AMYLOID REDUCTIONS IN PATIENTS WITH AND WITHOUT ARIA-E ON GANTENERUMAB

F. Hoffmann-La Roche Ltd, Switzerland Gregory Klein

P272 リバスチグミンパッチ国内第4相試験: NEXTSTEP study: 追加解析結果

ノバルティスファーマ株式会社メディカル本部 上田 兼吾

P273 AD 関心領域に血流低下を呈した症例の神経心理学的検査の1年経過の傾向と考察

社会医療法人孝仁会星が浦病院 大類 基史

P274 認知症患者の食欲不振に対するリバスチグミン及び人参栄養湯の効果の検討

医療法人愛生館小林記念病院薬剤科 加藤 豊範

P275 Relationship between cytokines and conversion risk from MCI to AD

横浜市立大学大学院医学研究科精神医学部門 阿部 紀絵

P276 アルツハイマー病治療薬の効果への生活環境因子の検討

横浜総合病院神経内科 山崎 貴史

P277 生活習慣病リスクファクターとアルツハイマー型認知症患者の認知/身体機能との関連

東京医科大学高齢総合医学分野 都河 明人

P278 MCI 39 例の認知機能に対する抑肝散加陳皮半夏の効果―投与 6 カ月の評価― 第 3 報

まつもと脳神経・内科クリニック 松本 正人

<AD バイオマーカー>

P279 Flotillin is a novel diagnostic blood marker of Alzheimer's disease

名古屋市立大学大学院医学研究科病態生化学 道川 誠

P280 脳主幹動脈病変を有する患者の認知機能と炎症性バイオマーカーの関連性

福岡大学医学部神経内科 緒方 利安

P281 熊本地震後の Aβ 排泄関連バイオマーカー変化及び海馬体積減少における性差

武蔵ヶ丘病院 佐藤 正

P282 深層学習を用いた一般血液生化学データによる認知症のマススクリーニング検査法の開発

東京大学大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻 酒谷 薫

P283 アルツハイマー病の認知機能の変化と CSF のアミロイド β オリゴマー濃度の関連性

鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座 高村 歩美

P284 血中 Aβ40, Aβ42 ならびに Aβ クリアランスタンパク質の MCI バイオマーカーの臨床有効性

株式会社 MCBI 研究開発部 伊藤ひとみ

P285 腸内フローラの組成変化は軽度認知機能障害の独立した関連因子である

国立長寿医療研究センターもの忘れセンター 佐治 直樹

P286 Plasma Aβ in cerebral microbleeds-positive subjects with cognitive impairment

Research Division, MCBI. Inc. Liu Shan

<脳血管障害・脳血管性認知症>

P287 急性期脳卒中患者の認知機能障害の実態: MMSE と MoCA-J との比較

日本医科大学大学院医学研究科神経内科学分野 須田 智

P288 本邦における脳卒中後認知症の診療実態に関する多施設アンケート調査結果

国立循環器病研究センター脳神経内科 鷲田 和夫

P289 アテローム硬化性脳主幹動脈閉塞性疾患患者における貧困灌流とアミロイド蓄積増加

滋賀県立総合病院研究所 山内 浩

P290 脳梗塞後認知機能障害に影響する急性期炎症反応の検討

秋田大学医学部脳神経外科脳卒中包括医療センター 中瀬 泰然

P291 大脳容積, 大脳白質病変に関与する患者因子, 網膜変化の検討

新潟大学脳研究所神経内科 笠原 壮

P292 深層学習による皮質下性脳血管性認知症と混合型認知症の分類

複十字病院認知症疾患医療センター 飯塚 友道

P293 混合型脳微小出血を有する認知機能障害患者における脳小血管スコアの検討

三重大学大学院医学系研究科神経病態内科学 伊井裕一郎

P294 虚血性脳卒中急性期に治療介入したせん妄及び不眠に関する検討

自治医科大学内科学講座神経内科学部門 松薗 構佑

P295 ラクナ梗塞患者における ABI/baPWV, 頭部 MRI, 頸動脈エコーと認知機能

翠清会梶川病院脳神経内科 中森 正博

P296 回復期脳卒中患者における入院中の BPSD の経過と退院時の BPSD に関連する要因の検討

信州大学医学部保健学科/安曇野赤十字病院リハビリテーション科 務台 均

P297 MoCA-J と頭部 MRI 所見との比較検討

翠清会梶川病院臨床検査部 西野真佐美

<神経核内封入体病>

P298 神経核内封入体病と臨床診断した3例の臨床・画像所見の検討

新潟県立燕労災病院神経内科/新潟大学脳研究所遺伝子機能解析学分野 三浦 健

P299 エオジン好性核内封入体病に対して MR spectroscopy を施行した 1 例

東邦大学佐倉病院放射線科 中塚 智也

P300 神経核内封入体病の3症例の検討

岡山市立市民病院神経内科 出口健太郎

P301 認知症に加え多様な神経症状を呈した神経核内封入体病の2例

信州大学医学部脳神経内科、リウマチ・膠原病内科 大橋 信彦

<認知症全般(疫学,リスクなど)>

P302 認知症と生理的加齢とは異なる: 脳磁図を用いた可視化

北斗病院精密医療センター 鴫原 良仁

P303 高齢者の睡眠習慣と認知機能に関する縦断的検討:中島町研究

金沢大学大学院脳老化・神経病態学(脳神経内科学) 阿部智絵美

P304 物忘れ外来における睡眠障害の重要性

済生会松山病院脳神経内科 矢部 勇人

P305 認知症患者に対する催眠鎮静系薬剤の処方動向と転倒の関連

厚生会道ノ尾病院薬局 中村 賢広

P306 認知症患者の睡眠障害に関して-アクチグラフを用いた研究(第2報)-

東京医科大学八王子医療センター高齢診療科 金谷 潔史

P307 日本人集団におけるアルツハイマー病ポリジェニック解析

大阪大学大学院医学系研究科 菊地 正隆

P308 ApoE E4 有無別にみた主観的認知障害と将来の認知機能低下との関連:中島町研究

金沢大学医薬保健研究域医学系脳老化・神経病態学(脳神経内科学) 柚木 颯偲

P309 もの忘れ外来における高齢初診患者の傾向と神経原線維変化型老年期認知症の可能性

昭和大学医学部内科学講座脳神経内科学部門 稗田宗太郎

P310 超高齢化地域における認知症実態調査~認知機能障害に関係する因子の検討~

新居浜精神衛生研究所財団新居浜病院/愛媛大学大学院医学系研究科精神神経科学講座 吉田 卓

P311 脳磁図 (MEG) を用いて認知症状を脳科学的に捉える試み

十勝自立支援センター介護老人保健施設かけはし 品田 慶太

P312 地域在住高齢者における生活習慣の年齢および性別による影響

大分大学医学部神経内科学講座 木村 成志

P313 物忘れ外来受診患者における心房細動の有病率と認知症との関連に関する検討

京都認知症総合センタークリニック 川崎 照晃

P314 高齢者の薬の適正使用情報に関する調査研究 ~抗精神病薬等の有害事象シグナル検出~

日本大学薬学部 泉澤 恵

<認知症全般(臨床症候. その他)>

P315 認知機能が低下した高齢者における難聴の有無と認知機能ドメインの関連

名古屋大学医学部附属病院老年内科 山田 洋介

P316 家族介護者の BPSD への対処行動の知識と認知症高齢者の BPSD の関連

北海道医療大学大学院心理科学研究科 石津紗希子

P317 視線検出技術を用いた客観的かつ定量的なせん妄評価法の開発

大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学 武田 朱公

P318 便秘症を伴う認知症患者におけるルビプロストンの治療効果について

杠葉病院 葉室 篤

P319 処方箋調剤薬局の抗認知症薬処方例の処方内容の解析

名古屋大学医学部附属病院地域連携・患者相談センター 鈴木 裕介

P320 地域密着型病院で脳神経外科専門医が物忘れ外来を継続する意義と問題点

大津赤十字志賀病院内科 杉野 敏之

P321 当院で開頭腫瘍摘出術を施行した脳腫瘍患者の認知機能とその経過

大阪医科大学脳神経外科・脳血管内治療科 矢木 亮吉

P322 楔前部・後部帯状回・海馬傍回神経膠腫に伴う地誌的見当識障害—4手術症例報告—

福島県立医科大学脳神経外科 村上 友太

<リハビリテーション>

P323 軽度認知障害と認知症に対するリハビリテーションプログラム〜当事者の視点からの検討

国立研究開発法人国立長寿医療研究センターリハビリテーション科部 神谷 正樹

P324 運動プログラムの定期的実施による認知機能改善効果と睡眠パラメータに関する観察研究

東京大学大学院薬学系研究科 富田 泰輔

P325 軽度の認知障害患者に対する外来認知機能訓練の効果

社会医療法人春回会長崎北病院総合リハビリテーション部 松原 利恵

P326 高齢脳卒中患者に対するリハビリテーションにおける認知症治療の重要性

平成記念病院脳神経外科 青山 雄一

P327 健常高齢者に対する音楽体操の長期効果: 御浜・紀宝フォローアップ・プロジェクト

三重大学大学院医学系研究科認知症医療学 佐藤 正之

P328 視空間認知の低下は中重度認知症患者の楽器演奏を障害させる

産業技術大学院大学産業技術研究科 田部井賢一

P329 MCI を含む高齢者に対する市と連携した生活習慣改善教室の有効性について

久留米大学医学部精神神経科 加藤 隆郎

P330 回復期リハビリテーションセンターにおける高齢認知症患者に対する睡眠管理

公益財団法人豊郷病院回復期リハビリテーションセンター 木築 裕彦

P331 認知症の人の作業活動評価指標の作成における信頼性の予備的検証

国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 川村 皓牛

P332 携帯型脳活動計測装置を用いた効果的な認知リハビリテーションの探索

大阪医科大学看護学部 久保田正和

<最新技術 (AI, IT など)>

P333 モバイルアプリケーションを用いた認知機能評価法の開発

筑波大学医学医療系臨床医学域精神科 太田 深秀

P334 モバイルアプリケーションを用いた認知機能障害群の音声分析

筑波大学医学医療系臨床医学域精神科 新井 哲明

P335 ブレイン・コンピュータインタフェースの入力誤りによる認知機能評価

工学院大学大学院工学研究科情報学専攻 田中 久弥

P336 ワイドターゲットメタボロミクスによるアルツハイマー型認知症の早期診断マーカー探索

立命館大学大学院薬学研究科 六車 宜央

P337 視線検出技術を用いた定量的認知機能評価法の開発と認知症鑑別診断への応用

大阪大学大学院医学系研究科老年,総合内科学 大山 茜

P338 認知症ケアへの先端技術活用に向けた質的研究—人工知能の活用に関する予備的研究—

国立長寿医療研究センターリハビリテーション科部/

SOMPO ホールディングス株式会社シニアマーケット事業部 佐藤 健二

P339 Deep learning を用いた顔写真からの認知症早期発見の検討

東京大学医学系研究科加齢医学 亀山 祐美

P340 オンラインデータベースに登録された健康な日本人における認知症危険因子の縦断的分析

国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター脳病態統合イメージングセンター 小川 雅代

<老年症候群・高齢者医療>

P341 軽度に認知機能が低下した高齢者の歩行速度と多剤併用の関係

名古屋大学大学院医学系研究科地域在宅医療学・老年科学 梅垣 宏行

P342 認知症患者の転倒・骨折二次予防(再発予防)の必要性―第一報:回復期リハ病院の現状

水野記念リハビリテーション病院脳神経内科「もの忘れ・動きづらさ」診断治療センター開設準備室

馬原 孝彦

P343 地域在住の高齢者におけるサルコペニアと嗅覚低下の関連性について

金沢医科大学医学部耳鼻咽喉科 張田 雅之

P344 認知症高齢者における歩容特徴と転倒

国立長寿医療研究センター老年内科 大釜 典子

P345 一般線形混合モデルを用いた高齢者の認知機能に与える運動因子解析

浜松ホトニクス株式会社 清水 良幸

P346 転倒における運動機能と遂行機能の関係:涌谷プロジェクトから得られた知見

東北大学 NICHe 高齢者高次脳医学 熊居 慶一

P347 生活の自立した超高齢者 1,015 人と超百寿者の調査からみた加齢性認知機能変化の考察

慶應義塾大学医学部百寿総合研究センター 西本 祥仁

P348 認知症患者における「転倒予防のための睡眠薬マニュアル」の有用性

養生館苫小牧日翔病院脳神経外科 石崎 腎一

P349 物忘れ外来患者におけるサルコペニアと脳体積との関連

東京医科大学高齢総合医学分野 佐藤 友彦

P350 部位別インピーダンス測定法を用いた、高齢者体組成と認知機能の縦断的変化の連関

杏林大学医学部医学科 福室 自子

P351 認知機能検査と ADL との相関の検討; HDS-R と手段的 ADL の強い相関

国立病院機構甲府病院脳神経外科 長沼 博文

P352 軽度認知障害と認知症における生活活動の性別による違い

国立研究開発法人国立長寿医療研究センターリハビリテーション科部 宇佐見和也

<介護・地域連携・社会医学>

P353 認知症患者を介護する家族の入院体験の捉え

一般財団法人精神医学研究所附属東京武蔵野病院 宮本 尭明

P354 軽度認知機能低下の在宅療養者に対する訪問看護の有用性に関する比較

国際医療福祉大学保健医療学部看護学科 落合 佳子

P355 A病院一般病棟で勤務する看護師の認知症の知識とケアの実態からの考察

富山市立富山市民病院看護部 高柳 佳忠

P356 国際的な認知症施策を踏まえた、日本における認知症診断後支援体制等の在り方について

日本医療政策機構 栗田駿一郎

P357 Intentional nonadherence の発生状況:軽度認知障害・認知症に該当する患者の検討

東北大学病院加齢・老年病科 冨田 尚希

P358 独居高齢者の退院支援と在宅療養

社会福祉医療法人総合上飯田第一病院リハビリテーション科 荻野 沙織

P359 保険薬局における認知症早期発見・早期治療への関与

薬樹株式会社薬樹薬局原町田 土志田敏伸

P360 おだやかな看取りを明日に活かすみち―病理解剖を在宅へ拡大する「新渡戸モデル」―

新渡戸記念中野総合病院神経内科 内原 俊記

P361 急性期一般病院における認知症教育プログラムの効果検討

国立がん研究センター先端医療開発センター精神腫瘍学開発分野/

国立がん研究センター東病院精神腫瘍科 小川 朝生

P362 急性期病棟における認知機能低下のみられる患者に対するユマニチュードの有効性の評価

鹿児島医療センター看護部東5階病棟 坂下 秀明

P363 高齢者の社会ネットワークと認知機能との関連における縦断変化の検討:中島町研究

金沢大学大学院脳老化・神経病態学(脳神経内科学) 森 彩香

P364 子供向け認知症啓発動画翻訳の試み(その1)

千葉大学医学部医学科 2 年次 菊地 佑

P365 子供向け認知症啓発動画翻訳の試み(その2)

千葉大学医学部医学科2年次 古川こと美

P366 子どもによるアルツハイマー型認知症の疾患啓発資材作成の試み

千葉大学医学部附属病院認知症疾患医療センター 石川 萌乃

P367 子どもが描いたイラスト付きレビー小体型認知症紹介パンフレットの試み

千葉大学医学部附属病院認知症疾患医療センター 焼山 正嗣

P368 糖尿病通院患者の、血糖状態・網膜症の有無と DASC-8 による認知機能との関連

伊藤内科クリニック 伊藤 眞一

P369 高齢糖尿病インスリン治療と認知症

医療法人社団藤聖会富山西総合病院 石橋 修

P370 入院時薬剤性せん妄に対する取り組みと課題

ICHO 東京高輪病院神経内科 津本 学

P371 高齢者てんかんの問診票による早期発見―認知症との関連において―

京都認知症総合センタークリニック 福井香代子

<認知症疾患医療センター・ケアチーム>

P372 急性期病院における認知症ラウンドの現状と、脳神経内科医としての役割

和歌山ろうさい病院脳神経内科 梶本 賀義

P373 京都市伏見区認知症初期集中支援チームの実績報告

医療法人社団蘇生会蘇生会総合病院 東 徹

P374 回復期病棟における院内デイケア導入効果

医療法人社団愛友会上尾中央総合病院 今井 広恵

P375 認知症ケア回診や院内向け認知症啓発活動から見る急性期病院における認知症ケアの課題

東京都済生会中央病院認知症疾患医療センター/医療法人社団礼恵会むすび葉クリニック渋谷 荒川 千晶

P376 急性期病院における認知症患者の睡眠障害に対する院内デイサービスの効果

宗教法人在日本南プレスビテリアンミッション淀川キリスト教病院看護部 瓜崎 美幸

P377 東京都目黒区の認知症初期集中支援事業の現状~認知症疾患医療センターとしての役割~

国家公務員共済組合連合会三宿病院神経内科 清塚 鉄人

P378 京都府宇治市における認知症初期集中支援の活動内容と支援モデルの取り組み

京都府立洛南病院 中村 陽子

P379 認知症ケアチーム「オレンジケアチーム」による身体拘束の把握と介入—二年間の報告—

名古屋市立東部医療センター脳神経内科 山田健太郎

P380 ボランティア活動は認知症患者の社会参加の機会となり得るか

昭和大学医学部内科学講座脳神経内科学部門 森 友紀子

P381 認知症患者診療における高度急性期病院の役割

NHO 京都医療センター脳神経内科 大谷 良

P382 群馬県内における認知症初期集中支援チームの実態と課題

群馬医療福祉大学リハビリテーション学部 山口 智晴

P383 生活様式の側面からみた認知症の一考察

地方独立行政法人神戸市民病院機構神戸市立医療センター西市民病院認知症疾患医療センター

岩蕗かをり

P384 レセプトデータを利用したケアに紐づけされていない認知症患者把握と介入の取り組み

三重大学医学部神経病態内科学 水谷あかね

P385 Social networks associate with the degree of dementia

山形大学医学部内科学第三講座(神経学分野) 伊関 千書

P386 チームと病棟で取り組む認知症高齢者への環境支援モデルの検討

トヨタ記念病院 小幡 志津

P387 高齢者の火気取扱いと IH 操作に関する調査と事例. 遂行機能スクリーニングの重要性

東北大学 NICHe 高齢者高次脳医学 高田 純子

P388 認知症ケアチーム対象患者におけるせん妄発生のリスク因子の検討

藤田保健衛生大学医学部認知症・高齢診療科 松永 慎史

P389 精神病床における認知症患者への退院支援の実態 — 退院調整活動質指標を用いて—

獨協医科大学 SD センター 井上 宗典

P390 認知症サポート医である泌尿器科医のもの忘れ外来―当院の現状―

社会医療法人財団天心堂へつぎ病院認知症サポート医 元森 照夫

P391 当院における認知症カフェ参加者の現状と課題

東京医科大学病院総合相談・支援センター 大竹口幸子

P392 千葉県認知症疾患医療センターにおける若年性認知症疫学調査

千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学/千葉大学医学部附属病院認知症疾患医療センター 平野 成樹

<症例報告>

P393 Creutzfeldt-Jakob 病が疑われた代謝性脳症の一例

日立製作所ひたちなか総合病院神経内科 儘田 直美

P394 前頭側頭型認知症における患者の病識欠如に至る過程への1考察

医療法人篤仁会富士病院精神科 大野 篤志

P395 時計描画テストが有用と考えられた低 Na 血症による認知機能障害の一例

北海道大野記念病院脳神経外科 大坂 美鈴

P396 症例報告 重度の嚥下障害を伴ったレビー小体型認知症患者の治療とリハビリテーション

中野共立病院リハビリテーション科 中川 美和

P397 腎不全を併発する認知症周辺症状に対して、アセナピンが著効した1例

桶狭間病院藤田こころケアセンター 萩倉美奈子

P398 抗てんかん薬投与後に精神病症状が改善した妄想性障害の一例

横浜市総合保健医療センター 西尾 友子

P399 ブレインバンク生前同意者への質的研究~家族性アルツハイマー病患者の語りの一例~

東京都健康長寿医療センター高齢者バイオリソースセンター 小幡 真希

P400 摂食嚥下訓練を欠いた早期退院による在宅生活の質の低下—訪問嚥下リハビリは可能か?

東北大学 NICHe 高齢者高次脳医学 厚東 知成

P401 梅毒性正常圧水頭症を合併した進行麻痺の1例

国立病院機構仙台医療センター神経内科 突田 健一

P402 破裂脳動脈瘤の診断に造影 MR-vessel wall imaging (VWI) が有用であった AD の一例

山形市立病院済生館脳卒中センター 近藤 礼